

令和7年度第1回学校運営協議会（R07.05.21）会議録（概要）

岩手県立紫波総合高等学校

日 時：令和7年5月21日（水） 14：00～15：30

会 場：岩手県立紫波総合高等学校会議室

出席委員：及川仁氏、岡崎希裕氏、北田友夫氏、楠美富栄氏、小岩美津子氏、富岡靖博氏、
細川恵子氏、森川高博氏

学 校 側：校長、副校長、事務長、各分掌主任、各年次主任

【学校説明会（体験入学）参加人数の目標値について】

（岡崎氏）

- 紫波総合高校は紫波町の最高学府。学校というのは地域の活性化の核になりうる存在。紫波総合高校の一頃より倍率は高くなっているのは嬉しく思っている。ただ、本日の岩手日報の記事で学校再編の話題があった。15年後には子どもの数が2/3となるが、紫波総合には生き残ってもらいたい。学校説明会の参加中学生人数が増えれば、受験倍率は上がるのか。

（学校側）

⇒ 手元にデータはないが、他校の例などからみると、学校説明会の参加者数の約半数が受験するようだ。目標値が150人とするならば受験者は半数の75人、ちょっと低い目標ではある。

- もし半数という相関性があるならば、目標値は定員の倍（240人）に設定してはいいか？アプローチの仕方が変わるのではないか？地域としてできることは協力したい。すぐ結果につながらなくても、他のアプローチを考えたりすることで長期的に考えることができるのではないか。

（学校側）

⇒ 検討する。

【高校への給食提供、地域資源の活用について】

（岡崎氏）

- 昨年にこの場で聞いたことだが、「朝食を食べたくても食べることができない生徒はどれくらいいるか？」という質問に、先生方は「他の学校と変わらないのではないか」「他より多いのではないか」という意見。「少ない」という話は無かった。

以前に子ども食堂を企画し、紫波総合高校の生徒にも手伝ってもらい、余った弁当を高校生に渡したりした。中学生までは町の社会福祉協議会がフォローできるが高校生になると外れる。満足にご飯を食べられない家庭環境にある生徒がいるのではないか。

そこで、今度新しく町の給食センターが稼働することに合わせて、高校が望むのであれば、高校にも給食を提供してはどうだろうか。また、高校で作った野菜を給食センターで使うことも考えられる。昼食を心配しなくてもよくなることは、学校の魅力化にもつながるのではないか。

ただし、食べる方々から食材費を徴収しても、紫波町のランニングコストの負担は年1000万円ほどとのこと。町内の生徒が半分以下の状況であれば、町がコストを負担し続けるのは意見が分

かれるところと聞いている。学校の存続や長期的な発展につながると考えるならば町がコストを負担することも議論されるのではないか。高校としては管理する必要もあり負担増にもなる。

(学校側)

⇒ 県内他校でも実施されているが、小中学校のようにきっちりやっている訳ではない。実際開始するとなれば受け入れ準備が必要と考える。(今後、町による生徒及び保護者対象のアンケートを実施するところだが、) 食材費の負担があるのであれば希望制にすることが現実的である。ただ、満足に食事ができないような家庭は、そもそも給食を申し込まないと思われる。

(岡崎氏)

- 個人的な意見で構わないが、高校で給食されるようになったら中学生の入学希望は増えると思うか？

(学校側)

⇒ 中学生自身がそれだけで判断する材料になるかは分からない。どちらかと言えば保護者の方が、少しは気持ちを向けてくれるかと思う。

(北田氏)

- 発想の転換が必要。町とタイアップしてやる必要があるのでは。生徒数が少なくなっている中で、町も年1000万円掛かるという発想では、進歩がない。グラウンドは荒廃している。自転車競技場、新しいものがない。設備投資とか紫波総合高校としてやる必要、そして、それには紫波町のバックアップ体制が必要だ。統合した小学校の跡地の活用とか、東根温泉に宿泊施設の整備とか、紫波町にはもっともっと魅力がある。

毎年同じような経営方針を出しているが、もっと議論していった方が良いのでは。

(岡崎氏)

- 新しいことをやろうとすると、だいたい批判される。例えば学校説明会を240人にしようと思ったならば、越えなければならないことがたくさんあると思う。先生方だけ汗をかくのではなく、我々地域もそうだし、行政も応援する気持ちがあるならば行政も、そして中学校の先生にも頑張ってもらわなければならないかもしれない。学校も含めて地域も行政も頑張っていく必要。給食のこと、240人のこと、御検討願う。

【新入生人数、学校名変更、海外派遣、選ばれる学校づくりについて】

(富岡氏)

- この春の盛岡南と不来方の統合で、紫波総合にも影響があるかと注目していたが、今年の入学生は85名、変わらなかった。このままでは自然に減少していっくだろう。給食の話は、財政面は別として新たな学校の在り方として非常に良い提案ではないかと思う。企業版ふるさと納税の活用とかも検討する必要がある。

また、時代に合った学科が必要ではないか。また、学校名だが「紫波総合」から変えても良いのでは。今の子ども達は我々のころと違って「紫波」が付いていなくても良いのでは。例えば「オガール高校」とか。私立高校が今成功しているのは全部名前を変えている。卒業生には申し訳ないが、

(小岩氏)

- 岡崎さん、北田さんの熱い思いを聞いた。岡崎さんが出資した子ども食堂の話では、私も拝見したが色々な年代の方が集まっていて、これから増えていこうと感じている。北田さんのお話では、今1000万円が大事なのか、この学校を残すのが大事なのか、ということだが、高校生に給食を出すことを検討しているということは、町が高校のことを大事に考えている表れであると考えている。町の広報にも高校のことが掲載されるようになった。とても良いことと思うが、不來方と盛岡南が合併した今、紫波総合は大丈夫なのかと不安になっている。

給食の話も必要だが、別件で、矢巾町の海外派遣では不來方高校の生徒も含めている。紫波町は、紫波総合高校にこれだけ力を入れていることを一歩進んで見せていくことが、町に高校を残すことにつながるのではないかと考える。

(森川氏)

- 町への激励に感謝申し上げます。紫波総合高校は、町唯一の高校として、町と密接につながっている。思いは同じである。岡崎さんから提案があった給食というきっかけから、魅力化や学ぶ環境を作っていくことが大事だと考える。

町づくりで大事なことは教育、教育環境が良いところに人は集まる。町でできることはしっかりやっていく。難しいところは様々な方から応援をいただいている。紫波町は他よりもスピード感・柔軟性を持っていると自負している。まずは相談いただきたい。

また、町内の情報をLINEで発信しているが、去年「かしわの里」オープン情報の記事により、お客さんが押し寄せたこともあった。学校・町の双方の良いところ活用しあうことが大事、これからも研究していく。

(北田氏)

- 今年紫波一中から入学した生徒数は？

(及川氏)

- 30人入学した。例年よりちょっと多めだった。花巻東高校の学校説明会では佐々木洋監督が高校説明会に来て非常に熱く語り、それで良いと思った子ども達が結構いたようだ。

私が平成16年あたりに沢内中学校で勤務していた際、当時の西和賀高校は存続の危機。高校と地域住民が一体になって存続に向け、中学3年生の全家庭に戸別訪問して入学を勧めていた。(今はダメだと思うが。) また、説明会でも副校長が熱く語ったり、力のある野球・陸上の指導者がいたりとか魅力があった。それを西和賀町がバックアップして、通学費の半額を補助するとか、寮を整備して寮費の半分を補助するなど平成10年代半ばから続けて、今の西和賀高校があると思う。

お金の補助もあるだろうが、中学生はカリキュラムや地域の良さを学ぶ機会に魅力を感じているのではないかと。魅力ある教育内容を整える必要があると思う。

(岡崎氏)

- オガールの全国からの視察数は日本一、そこに本社をかまえる「エルテス」という会社は、デジタル警備をやっていて今は警備まで広げているが、岩手で上場している数少ない会社の一つ。

社長が紫波町出身で紫波に思い入れがあるから本社をオガールに移してくれたと思う。この方のご縁で東大卒のシイタケ農園をやっている人もいます。この地域でしか学べないことやご縁を持っている人とのつながりなどにより、高校の魅力化のために喜んで協力してくれる地域の方がいると考える。

(及川氏)

- 大人の説明も良いが、子ども達からの話も中学生に影響すると思う。昨年度、オガールで開催された高校の卒業研究発表に、一部の中学生が参加した。

(岡崎氏)

- 卒業研究発表で選抜された高校生を中学校に連れて行って、中学生全員の前で発表させてはどうか？

(及川氏)

- 中学生も地域のことを学ぶ。探究学習のモデルを高校生から示してもらったりするなど。色々可能性はあるかもしれない。持ち帰って検討する。

(楠美氏)

- イベント等で子ども達に魅力を発信することは非常に大きな機会である。今は行政の立場であるが、以前に中学生の進路を指導して一番感じるのは、子ども達が学校を選ぶ視点は、「日々の授業の楽しさ」「いじめがない」「安心して暮らせる学校」というところ。イベントで良い話を聞いても、先輩から聞こえてくる話、つてで聞こえてくる話で変わってくる。また、保護者は出口指導を見ている。特色化・魅力化ビジョンの資料に「ふるさとの発展を担う人材を育てる」と掲げ、実際にその進路先は県内就職者が多く、目指すところにつながっていると思う。
日々が大事である。系列を5から4に整理した。今後はソフトウェアを充実してほしい。

(細川氏)

- 実際に、様々な実習など、こんなに地域に出ている学校はないのではないかと。実際に現場に出て、福祉事業所に入って実習をするのはなかなか無いのでは。楽しい学校にしてもらいたい。

【大学からの指定校について】

(富岡氏)

- 指定校いくつあるか。公表してはどうか。

(学校側)

⇒ いくつがあるが、大学から毎年来る保障はない。実績の公表などは御意見として承る。

令和7年度岩手県立紫波総合高等学校第1回学校運営協議会

日 時 令和7年5月21日（水）14：00～

場 所 会議室（本校2階）

次 第

- 1 開会の言葉
- 2 学校長あいさつ
- 3 自己紹介
- 4 本校の現状・課題について
 - (1) 学校経営計画について
 - (2) 学校概況について
 - (3) 特色化・魅力化ビジョンについて
 - (4) 質疑応答
- 5 「今後の県立学校に関する地域検討会議（第1回）」について
- 6 今後の日程について
 - 第2回 令和7年10月23日（金） ※ 紫鷲祭校内発表終了後
 - 第3回 令和8年2月中旬
- 7 その他
- 8 閉会の言葉

関係者名簿

【学校運営協議会委員】

※五十音順・敬称略

及川 仁	紫波第一中学校校長【学校】
大坪 賢心	紫波町建設部下水道課主任【同窓会】
岡崎 希裕	岡崎建設株式会社代表取締役社長【民間】
北田 友夫	長岡産直組合【地域・同窓会】
楠 美富栄	紫波町教育委員会学校教育課長【行政・学校】
小岩 美津子	元本校職員【地域】
齋藤 美穂子	元本校PTA会長【地域】
富岡 靖博	(株)トミオカ代表取締役【民間】
細川 恵子	特定活動非営利活動法人紫波さぷり【NPO代表】
森川 高博	紫波町総務企画部企画課長【行政】

【学校教職員】

大木 由里	校長
小野寺 丈晴	副校長
佐藤 律子	事務長
佐藤 貴生	総務主任、福祉・健康系列主任
近江 隆久	教務主任
鈴木 太一郎	生徒指導主任
久保 真由美	進路指導主任
齋藤 徳夫	保健・相談支援主任
駿河 朋仁	農場長、エコロジー・フード系列主任
畠山 多香子	ライフデザイン系列主任
佐々木 敬之	情報・経済系列主任

4 本校の現状・課題について

(1) 令和7年度経営計画について

1 校訓・教育目標		<p align="center">～生徒が希望に燃え、明るく、地域から信頼され続ける学校づくり～</p> <p>校訓：「知を求め ころ豊かに たくましく」</p> <p>教育目標：1 人間としての生き方を考え、生涯にわたり学び続けようとする意欲を育てる。 2 正しく判断し、他者を尊重しながら自己実現を目指そうとするところを育てる。 3 将来の職業や生活を見通し、人生をたくましく切り拓こうとする力を育てる。 4 持続可能な社会のために、自己及び社会の課題解決に向け努力する人間を育てる。</p>		
2 ス ク ー ル ・ ポ リ シ ー	(1) 育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・問いを立て、解決の手立てを見いだせる力を育成します。 ・他者と協働できる力を育成します。 ・多様な価値観を尊重できる力を育成します。 ・自らを律することができる力（基本的生活習慣の定着、整容を正す、規則の順守等）を育成します。 		
	(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・筋道立てて考える力を育てるために、基礎学力の定着を図ります。 ・課題探究能力の育成を図るために、「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」「卒業研究」を体系づけて学習します。 ・地域の産業振興を踏まえ、系列の特性を生かす形で岩手県立大学・岩手県立農業大学校、地方振興局等と連携し、高度で専門的な分野を学びます。 ・地域貢献を念頭に、紫波町・オガールとの連携を密にし、地域の人材を活用した学びや体験的な学びを実践します。 		
	(3) 入学者の受け入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・好奇心旺盛で、課題解決を目指す探究心に厚い生徒 ・コミュニケーションを大切に（他者を認めて相手に寄り添える）生徒 ・失敗を恐れず、チャレンジ精神で物事に取り組み、ゴールに向けて努力を惜しまない生徒 ・生まれ育った地域（岩手県や紫波地域）について学びを深めたい生徒。 		
3 魅力化協働パートナー		紫波町 株式会社オガール 株式会社岩手バレーボールコミッション 紫波町内各中学校		
4 目 指 す 学 校 像	(1) 今年度の重点目標	重点目標		
		達成指標		
		ア 学習指導の充実 常に授業力の向上に努め、社会が求める基礎学力と学習習慣の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価の生徒対象アンケートで「先生方は、わかりやすく、力のつく授業を行っている」と答えた生徒の割合【90%以上】 	
		イ 生徒指導の充実 実効的に機能する「学校いじめ対策組織」を構築し、組織的にいじめの未然防止・適切な対処に当たる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価の生徒対象アンケートで「本校のいじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止・早期発見の取組がなされている」と答えた生徒の割合【80%以上】 	
		ウ 進路指導の充実 生徒の希望を生かした進路実現のため、進路指導力の向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・進路目標達成【95%以上】 	
エ 保護者・地域との連携 保護者・地域と連携し、期待に応え、貢献することによって信頼され続ける学校にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価の保護者対象アンケートで「学校は、家庭との意思疎通やPTAとの連携を図っている」と答えた保護者の割合【90%以上】 			

	<p>オ 開かれた学校づくりの推進 学校の「魅力」を外部へ積極的に発信する。</p>	<p>・ 学校説明会参加者数 【150名以上】</p>
	<p>カ 不適切な指導の根絶 生徒を個人として尊重し、不適切な指導を根絶する体制を組織として構築する。</p>	<p>・ 学校評価の生徒対象アンケートで「先生方は、厳しく指導しながらも、良いところを褒めたり認めたりしながら接してくれる」と答えた生徒の割合【80%以上】</p>
(2) 取組方針	<p>ア 学習指導の充実を図るための取組</p> <p>(ア) ユニバーサルデザイン授業やアクティブラーニング、全教職員によるICT機器の活用</p> <p>(イ) 目標に準拠した観点別評価の実施</p> <p>(ウ) 計画的な課題による家庭学習習慣の定着</p> <p>(エ) 資格取得目標の設定と積極的な挑戦</p> <p>(オ) 授業公開や授業研究会への年1回以上の研修参加</p> <p>(カ) 実力テストでの正答率の向上</p> <p>(キ) 「情操・健康教育」「主権者教育」「復興教育」の取組</p>	
	<p>イ 生徒指導の充実を図るための取組</p> <p>(ア) 基本的生活習慣の確立（挨拶、整容、マナー、清掃）、問題行動ゼロ</p> <p>(イ) 「生活に関するアンケート」（年3回）、保護者アンケート（年2回）等によるいじめの早期発見と解消に向けた対処</p> <p>(ウ) 部活動・対外活動の活性化（目標設定の共有、リーダーの育成、奉仕の精神、自己肯定感や自己有用感の向上）</p> <p>(エ) 一人ひとりの生徒理解と支援に配慮した指導（心身の健康管理と相談体制の確立、通級による指導の実施）</p>	
	<p>ウ 進路指導の充実を図るための取組</p> <p>(ア) 自己実現の志を育み、個々の進路目標を早期に確立させる</p> <p>(イ) 就業への理解と意識を高める（インターンシップ、企業見学）</p> <p>(ウ) 職業講話、進路ガイダンスの充実と情報発信</p> <p>(エ) 各種個別指導の充実（小論文、面接、添削）</p> <p>(オ) 社会人としての基礎力を養う（コミュニケーション能力、協調性、忍耐力）</p>	
	<p>エ 保護者・地域との連携を図るための取組</p> <p>(ア) 学校運営協議会、地域・保護者からの要望や課題に対応する</p> <p>(イ) 地域の行事や諸事業に積極的に参加し、相互理解と交流を深める</p>	
	<p>オ 開かれた学校づくりの推進を図るための取組</p> <p>(ア) 「ソーシャルスキル基礎」「総合的な探究の時間」「各系列の授業」における地域資源の活用（地域理解、思考、発信）</p> <p>(イ) 学校案内、学校通信、ホームページ、SNS等による情報発信</p> <p>(ウ) 中学生学校説明会や高校説明会で中学生や保護者に本校総合学科の理解を図る</p>	
	<p>カ 不適切な指導の根絶を図るための取組</p> <p>(ア) 全教職員等が子どもの権利条約等についての理解を深め、生徒の人権を尊重した指導を行う</p> <p>(イ) 不適切な指導の根絶に向けた校内研修を実施する</p>	

(2) 学校概況等について

ア 令和7年度在籍者数（系列選択別）（5月1日現在）

系列	1年次			2年次			3年次			総計		
	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計
エコロジー・フード	36	49	85	23	5	28	18	4	22	(41)	(9)	(50)
ライフデザイン				5	15	20	1	13	14	(6)	(28)	(34)
情報・経済				7	13	20	13	13	26	(20)	(26)	(46)
福祉・健康				5	13	18	5	13	18	(10)	(26)	(36)
計	36	49	85	40	46	86	37	43	80	113	138	251

※総計の各系列の合計は、2・3年次生の合計で（ ）にして示している。

【参考】

① エコロジー・フード系列

【将来の進路先】農業・食品関連企業就職、農学系大学・短大進学

【主な履修科目】農業と環境、果樹、食品製造、植物バイオ、野菜、草花、農業機械、地域資源活用

【主な取得資格】アーク溶接技術講習、危険物取扱者試験、農業技術検定

② ライフデザイン系列

【将来の進路先】被服・食物・その他企業就職、保育系短大・専門学校進学

【主な履修科目】ファッション造形基礎、フードデザイン、保育基礎、服飾手芸、ファッションデザイン、消費生活

【主な取得資格】被服製作技術検定、食物調理技術検定、保育技術検定

③ 情報・経済系列

【将来の進路先】一般企業就職、商業・情報系大学・短大・専門学校進学

【主な履修科目】ビジネス基礎、簿記、情報処理、マーケティング、ビジネス情報

【主な取得資格】簿記実務検定、情報処理検定、ビジネス計算実務検定、ビジネス文書実務検定

④ 福祉・健康系列

【将来の進路先】福祉・介護関連企業就職、福祉系大学・短大・専門学校進学

【主な履修科目】介護福祉基礎、こころとからだの理解、社会福祉基礎、介護総合演習、生活支援技術、コミュニケーション技術

【主な取得資格】介護職員初任者研修

イ 近年の在籍数の推移（各年度5月1日時点）

	クラス数	男子	女子	計
令和3年度	13	132	150	282
令和4年度	12	104	120	224
令和5年度	11	107	120	227
令和6年度	10	113	129	242
令和7年度	9	113	138	251

【参考】

本校入学者の出身市町村等の状況について

	入学者 総数	紫波町		矢巾町		(旧都南村)		(旧石鳥谷町)	
		本校 入学者数	前年度 中3人数	本校 入学者数	前年度 中3人数	本校 入学者数	前年度 中3人数	本校 入学者数	前年度 中3人数
R7年度	85人	35人 (12.8%)	274人	11人 (4.7%)	236人	17人 (3.6%)	476人	3人 (3.6%)	83人
R6年度	94人	32人 (11.7%)	274人	19人 (7.9%)	240人	15人 (3.2%)	468人	7人 (5.6%)	126人
R5年度	92人	28人 (10.1%)	278人	22人 (8.9%)	246人	21人 (4.3%)	485人	6人 (5.7%)	105人
R4年度	74人	14人 (4.9%)	283人	15人 (6.0%)	249人	20人 (4.4%)	453人	5人 (4.1%)	122人
R3年度	72人	21人 (7.2%)	290人	17人 (7.1%)	240人	14人 (3.5%)	403人	4人 (4.0%)	99人
H27年度	172人	56人 (16.2%)	346人	32人 (10.4%)	309人	39人 (8.6%)	456人	8人 (5.3%)	151人
H17年度	237人	97人 (23.2%)	419人	60人 (19.2%)	312人	34人 (6.2%)	547人	5人 (2.9%)	174人

参考資料 本校入学者数：本校学校要覧
前年度中学3年生人数：学校一覧（岩手県教育委員会）

ウ 令和7年度在籍生徒の通学方法（5月1日現在）

	徒 歩	自 転 車	列 車	バ ス	バ イ ク	そ の 他	計
1年次	28	22	26	0	0	9	85
2年次	28	11	34	0	0	13	86
3年次	20	24	21	0	0	15	80
計	76	57	81	0	0	37	251

エ 令和7年度所属部員数（5月1日現在）

	運動部名	男子	女子	計
1	柔 道	5	1	6
2	バスケットボール	8	4	12
3	自転車競技	15	8	23
4	野 球	0	0	0
5	弓 道	7	12	19
6	陸上競技	9	3	12
7	バレーボール	8	10	18
8	ハンドボール	1	0	1
	運動部 計	53	38	91

	文化部名	男子	女子	計
1	音 楽	2	8	10
2	美 術	1	7	8
3	書 道	1	2	3
4	理科研究	11	0	11
5	演 劇	1	7	8
6	茶 道	1	4	5
7	文化研究	0	5	5
	文化部 計	17	33	50
		※部活動加入率		56.2%
	総計	70	71	141

オ 令和6年度進路状況 (令和6年度卒業生合格・内定一覧)

令和7年3月31日現在

性別	在籍	内定者数			就職内定数	就職合計	進学合格者				進学合計	公務員	進路決定	進路未選択者
		管内	県内	県外			四年制	短大	専門学校等	職業能力開発施設等				
男子	31	8	7	3	18 / 18	35 / 35	1	0	9	0	23 / 23	1 / 1	59 / 59	2
女子	30	5	5	7	17 / 17	100 %	0	0	12	1	100 %	0 / 0	100 %	0

【大学】1名
岩手県立大学ソフトウェア情報学部

【専門学校等】21名
北日本ハイテクニカルクッキングカレッジ(4名)
大原ビジネス公務員専門学校(3名)
北日本ヘア・スタイリストカレッジ(3名)
盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校(3名)
菜園調理師専門学校
専修大学北上福祉教育専門学校
盛岡ヘアメイク専門学校
北上コンピュータ・アカデミー
代々木アニメーション学院
東北電子専門学校
仙台ウェディング&ブライダル専門学校
仙台大原簿記情報公務員専門学校

【文部科学省管轄外の大学校等】1名
岩手県立産業技術短期大学校矢巾キャンパス

【管内就職】13名
森田製作(有)
白石食品工業(株)
(株)トーサイ
岩手ダイハツ販売(株)
(株)日産レンタカー岩手
(株)JAシンセラ
(株)メイキッシュ東北支社
ND(株)岩手営業所
IGRいわて銀河鉄道(株)
社会福祉法人紫波会
太平ビルサービス(株)盛岡支店
(株)SAKURA
日本オイルターミナル(株)盛岡営業所

【県内就職】12名
(株)アイオー精密(2名)
イーエヌ大塚製薬(株)花巻工場
(有)神山工業
きたかみ自販
(株)長府製作所花巻工場
東北丸大食品(株)岩手工場
(株)ミッシェル
(株)長澤工務店
日新スズキ販売(株)
漁裕丸
(株)TSD

【県外就職】10名
(株)ヤマダデンキ(2名) ※
第一貨物(株)(2名) ※
日本郵便(株)東北支社 ※
(株)ユニバース ※
(株)エービーシー・マート ※
(株)共立メンテナンス ※
(株)やまや ※
日本金属(株)
※ 本社所在地は県外であるが、
就業場所は県内の事業所

【公務員】1名
自衛隊

カ 情報発信について

メディアプラットフォーム「note」 ⇒



キ 相談支援関係

相談体制の充実 スクールカウンセラー 2名

教育目標

- (1) 人間としての生き方を考え、生涯にわたり学び続けようとする意欲を育てる。
- (2) 正しく判断し、他者を尊重しながら自己実現を目指そうとするところを育てる。
- (3) 将来の職業や生活を見通し、人生をたくましく切り拓こうとする力を育てる。
- (4) 持続可能な社会のために、自己及び社会の課題解決に向け努力する人間を育てる。

岩手県立紫波総合高等学校 特色化・魅力化ビジョン

ふるさと（岩手県、紫波地域）の発展を担う人材を育てる

地域社会を構成する一員

地域産業を支える人材

アドミッションポリシー

このような生徒を待っています

ふるさとについて
学びを深めたい

課題解決を
目指す
探究心に厚い

チャレンジ精神
努力を惜しまない

コミュニケーション
を大切にしている

カリキュラムポリシー

このような学びを行います

基礎学力の定着

キャリア教育充実の
ため、地域人材を活
用した学びや体験的
な学びの実践

関係機関と連携し
高度で専門的な分
野を学ぶ

グラデュエーションポリシー

このような力を伸ばします

問いを立て、
解決の手立てを
見いだせる力

他者と協働できる力

多様な価値観を
尊重できる力

自らを律することが
できる力

『紫波希望ヶ丘学』・・・「紫波」を再発見

1年次「産業社会と人間」

紫波地域（風土・文化・産業等）について
理解を深める場

- ① 自分の適性や能力について理解し、進路
目標を立てる場
- ② 主体的に周囲に関わり、学ぼうとする
資質を養成する場

2年次「総合的な探究の時間」

紫波地域（風土・文化・産業等）の良さや
課題を見つける場

- ① 協力して課題を向き合う場
- ② 様々な交流や体験を通して人間的に成長
する場

3年次「卒業研究」 （総合的な探究の時間）

紫波地域（風土・文化・産業等）の抱える
課題解決の手立てを考え、解決策を提案す
る場

- ① 自分の目標に対して努力を継続する態度
を養成する場
- ② 社会人としてのルールやマナーの定着を
図る場
- ③ 自分の考えを的確かつ効果的に伝える
手立てを見につける場

『紫波希望ヶ丘学』・・・「紫波」を再発見

1年次	産業社会と人間（2単位）				
	1 系列選択にむけて（ガイダンス、体験など） 2 Classiを活用したキャリアパスポート作成 3 地域見学（日詰平井邸）、ゴミ拾いボランティア（日詰商店街） 4 社会人講師講演会 5 進路ガイダンス、職業しらべ				
2年次	総合的な探究の時間（1単位）	各系列			
		①エコロジー・フード	②ライフデザイン	③情報・経済	④福祉・健康
	1 インターンシップ （事前ガイダンス・事後振り返り含む） 2 キャリアパスポート作成 3 復興・防災教育（調べ学習） 4 地域探究講座 （まちづくり・地域貢献など）	1 「農業と環境」農業の基礎と環境学習 2 「果樹」ブドウの栽培と生産 3 「食品製造」ジュース・ジャムの製造 4 紫鷲祭での販売実習	1 伝統料理「がんづき・かまやき」講習 2 地域保育の特別講習	1 文化祭での販売実習（商品の仕入・商品管理・販売・会計などビジネス活動における一連の流れの体験）	1 介護老人福祉施設実習
3年次	総合的な探究の時間（2単位）	①エコロジー・フード	②ライフデザイン	③情報・経済	④福祉・健康
		1 新聞の活用方法 2 地域を知る・地域資源（リソース）の再発掘と活用 3 地域課題へのアプローチ 4 プレゼンテーションスキル 5 金融リテラシー	1 「草花」花壇苗とシクラメンの栽培 2 「野菜」苗物・各種野菜の栽培と生産 3 「農業機械」トラクター操作練習と田植え・稲刈り 4 『産直かしわの里』での販売実習	1 地域食材を生かした料理考案 2 伝統料理「ひつつみ・変わり巻き」講習 3 図書館訪問（絵本、紙芝居） 4 子育て支援センター訪問（保育園児との交流会） 5 Oneday chef（地産地消高校生レストラン） 6 新米を食べる会（共食・地産地消を学ぶ） 7 郷土の食文化を学ぶ会（もち料理）	1 文化祭での販売実習（商品の仕入・商品管理・販売・会計などビジネス活動における一連の流れの体験） 2 上級資格への挑戦（日商簿記2級・基本情報技術者試験等、上級資格取得を目指した学習意欲向上に向けた取組）

5 「今後の県立学校に関する地域検討会議（第1回）」について

- (1) 実施地区 盛岡地区(1)、盛岡地区(2)、中部地区、県南地区、沿岸南部地区、
宮古地区、県北地区(1) (久慈)、県北地区(2) (二戸)
- (2) 期日 紫波町が含まれる盛岡地区(2)は、令和7年5月27日 (火)
- (3) 会場 岩手県公会堂
- (4) 参集者
 - ・ 市町村長 (代理可)
 - ・ 市町村教育委員会教育長 (代理可)
 - ・ 産業関係者 (農林水産業、商工業等産業関係者各市町村2名以内)
 - ・ P T A関係者 (各市町村中学校PTAの代表者1名)
 - ・ 各地区中学校長会の代表
 - ・ (オブザーバー) 各地区選出県議会議員
 - ・ (オブザーバー) 各地区内県立学校長
 - ・ (県教育委員会事務局) 教育次長兼学校教育室長、教育事務所長、
学校教育企画監、県立学校人事課長、義務教育課長、高校教育課長、
特別支援教育課長、産業・復興教育課長、高校改革課長ほか
- (5) 会議資料 別紙のとおり
- (6) 参考 本校における学級編制の推移
令和2年度 総合学科 5学級 ⇒ 4学級
令和5年度 総合学科 4学級 ⇒ 3学級

令和7年度第2回学校運営協議会（R07.10.24）会議録（概要）

岩手県立紫波総合高等学校

日 時：令和7年10月24日（金） 14：45～16：15

会 場：岩手県立紫波総合高等学校会議室

出席委員：及川仁氏、岡崎希裕氏、楠美富栄氏、小岩美津子氏、齋藤美穂子氏、森川高博氏

学校側：校長、副校長、事務長

【今後の県立学校に関する地域検討会議（第2回）盛岡地区②について】

（学校側）

⇒ 町役場内において、この件で何か話題等ありましたら御教示いただきたい。

（楠美氏）

- 教育長のコメントは掲載されているが、総合学科には、実業高校にはない良さがあることを改めて検証する必要があるのではないかという話をいつもしている。総合学科に進学したからこそ学べた事や将来の進路につながった事があるはず。そのような検証がなされていないことで中学生に総合学科の魅力が伝わらず、選択肢から外れているのではないか。非常にもったいないことであるという旨の話があったところ。
- 30年ほど前にスタートした総合学科、魅力が県民に伝わっていないのではないか。高校再編という話が出ている中、もっともっと魅力を伝えていく何かしらのアンケートなどにより、中学生の進路の選択肢の一つにつなげていく必要性を感じている。

（森川氏）

- 町唯一の高校ということで、存続することが大前提で考えている。その中で紫波町の子ども達が紫波総合高校を進路選択肢の一つとしていく環境を作っていかなければならない。町では男女共同参画の取組の中でジェンダーギャップを解消していく取り組みを強めているところ。加えて、ジェネレーションギャップの解消、これまでの慣習にとらわれた古い考えを打ち破っていかなければ、将来の選択肢を狭めてしまうかもしれない。また、個人的な話だが、地域の大人たちが「紫波高良いよね」と背中を押してくれるような意識に変えていけるような取組に期待したい。

【その他（志望者増に向けて：中学校説明会（8/1実施）の参加者、高校生就職等）】

（学校側）

⇒ 今年度の参加者数を昨年度と比較すると、全体の参加者数は減ったが、中学生の参加者数は増やすことができた。

⇒ 追跡できた中学校のみ資料に掲載しているが、昨年度の参加中学生のうち、実際に入学した生徒は思ったほど多くなかった。自分の目で確かめないと、進路選択する生徒が多かったというのはちょっと驚きであった。

（岡崎氏）

- 人数の話は前回でお話したが、中学生参加者が増えたことは素晴らしいこと。昨年度と比較して、中学生の参加者が増えた要因は。

(学校側)

⇒ 各中学校で実施する説明会に、昨年度は校長、副校長、教務主任が対応したが、今年度はほぼ校長が自ら対応し、直接中学生に説明したことが要因ではないか。中学校の説明会は、生徒のニーズを踏まえて呼ぶ高校を決めているが、対応中学校数は例年どおり。

(岡崎氏)

- これを踏まえ、来年度は何かできそうなことは。

(学校側)

⇒ 高校で行う説明会に不参加にも関わらず本校に入学する生徒がこれだけ多くいることに驚いているところ。これでは各中学校を回って説明することで何が変わるのか、説明がつかない。

(岡崎氏)

- 子どもの数は減っていくので、高校再編の話になると苦しくなってくる、興味を持っている中学生の数字である説明会の参加人数は大事なところ。
- 前の会議で話題になった給食についても同様だが、この学校を残すために町の多くの皆さんがちょっとずつ負担することで、連携・理解が深まる。目的に向かってみんなで汗をかくのは大事なこと。先生方だけに何かをやってほしいということではなく、町の中でできる人たちが負担をすべきだと思う。

- 高校生の就職活動について伺いたい。一般的に、人が欲しい企業が学校に来るものなのか、それとも学校側から企業に働きかけるものなのか。

(学校側)

⇒ 基本的には、ハローワークを通じた高卒求人のルールに従って進めている。

(岡崎氏)

- 進学よりも就職の希望者が多いのであれば、例えば「この学校に入ったら、良い会社に勤められる」ということがあれば、出口が分かりやすく学校の魅力につながるのでは。理想は、この学校で学んで町内やこの地域に残ってもらえれば良いが、それよりもこの学校に残ってもらわないと、それもできない。そのために我々が汗をかきたい。この説明会の参加者増のために地域ができることがあれば協力したい。
- 例えば、高校に給食があれば、親にとって昼食を用意しなくても良いというメリットがある。また、この学校で学んで頑張ったら、こんな大人に近づけるという実績をアピールしては行かないか。

- 長期的に見れば、この学校で学んでいる子ども達の満足度を高めて、大人になって家庭を持って自分の子どもをこの高校に入れたいと思ってもらう循環ができれば大丈夫になると思う。短期的には、この説明会の参加者人数にこだわって、増やすための施策を打っていく必要がある。成功と失敗があると思うが、何かやらないと失敗かは分からない。エンジンをぶら下げることも必要では。今日明日の文化祭でキッチンカーを入れることも、ある意味振り切っていると思う。

(森川氏)

- この説明会というのは、クローズドなものか。町の方向けに広報してよいものか。できることとできないことがあると思うが、町として広報によって応援できることはある。相談してほしい。

(学校側)

⇒ この説明会は中学3年生を対象としているので、周辺中学校だけに案内をしているところ。
(森川氏)

- 例えば、説明会は中学3年生がメインだけど、進学を検討している中学1・2年生の保護者にも案内してはいいか。

(岡崎氏)

- 他に、客寄せパンダじゃないが、だれか会いたいと思うような方に基調講演してもらおうとか、そこに経費が掛かるようであれば我々地域に相談するとか。学校がなくなると困るならば、みんながちょっとずつ分担する行為をとおして、地域がより良くなっていくということにつながるのでは。西和賀は頑張ったのではないか。

どんどん仕掛けていって、ダメなら止めれば良いし。この数を増やすためにトライしてほしい。

(小岩氏)

- 岡崎さんは、実際に色々汗をかいていらっしゃる。町民も何かできることをしたいと思っいらっしゃる方が多くいる。核になるもの必要と考える。また、資料に教育長さんの発言があった。沿岸・県北の地域はもう危機感を持って積極的に動いているが、それと比べればまだという雰囲気がある。学校の動きをみて町が動くのではなく、町としてこういうことをやるので学校を何とかしてください等というような動きになっていくことが必要では。

また、中学生の意識は変わってきているのではないか。昔は点数で高校が決められていたが、高校の特色から進路選択をしているような話を聞くが、中学校ではいいか。

(及川氏)

- 昔は点数で高校を選んでいたが、今は、学力だけではないところも含めて進路選択をしている。また、あそこの学校は嫌だとかという情報を得て高校を選択している。日詰小学校での防災訓練で高校生が関わったように、高校生が地域と一緒に取り組むというのは大事で、小・中学生にとって高校生が身近に感じることは重要。地域にとって身近になるよう「おらほの学校」となるよう垣根が低くなるよう我々も考えていきたい。

また、今年は30名が入学したが、地元の子も達が入っていないと、学校を残してくれと言っても説得力がない。紫波町内の生徒が半分以下では、説得力がない。定員を40人欠けないであっても紫波町の子も達がいっぱい入っているような状態になれば良いと個人的に思っている。

(楠美氏)

- 今、小中一貫ということで中学生が小学校を訪れて、陸上競技や合唱を教えたりして、小学校と中学校が繋がっている。先ほど及川校長がお話ししたように、日詰小学校で高校生と一緒に活動したように、中学生と高校生が接点を持った活動によって、地元の学校という意識が高まっていくよう教育委員会としても何かできないかと考えていければと思う。

岡崎さんが話したように、今いる高校生が魅力を感じて、それが繋がっていくことが大事だなと感じたところ。

(齋藤氏)

- 息子は自分から希望してこの学校を受けた。中学校に高校の卒業生が来校して、高校の魅力を語ってくれた。紫波総合高校の卒業生が、中学3年生だけでなく中学生全体に、高校の話や卒業後の話をすることも必要ではないか。息子はたまたま部活動指導で中学校に顔を出すのが、紫波高のことを話ししているようだ。卒業生に魅力を語ってもらうことも一つかと。私が矢巾だが、不來方高校も卒業生を利用している。卒業生を講演させようとしたがうまくいかなかった。活躍している卒業生がいるはずなので、高校生だけでなく、近隣の中学生に聞かせたい。その時に高校も見ってもらう機会があっても良いのでは。

(学校側)

⇒ 先日、本校卒業生で、東京で映像クリエイターをやっている方から突然FAXがあり、講演等依頼があれば引き受けます旨の連絡を受けたところ。

(齋藤氏)

- どんどん卒業生を利用して、講演をお願いすることは大事。紫波総合高校はこういう先輩がいるんだと出せば出すほど魅力につながる。

(岡崎氏)

- 今の中高連携の事業は何かやっているか。

(及川氏)

- オガールで開催する卒業研究発表会を、希望する中学生が見学している。昨年度は結構行った。30人ほどだったと思う。

(岡崎氏)

- その発表について、高校生が中学校に行って発表させることは可能か。

(学校側)

⇒ 3年生は授業がないので、日程が合えば可能。

(及川氏)

- 中学3年生は受験を控えているので、1・2年生向けは可能かと。

- また、中学校で主催する高校説明会に、先生が説明をする中に高校生が魅力を話してもらうことも面白いかと。

- 高校主催の説明会は、盛岡一高と盛岡三高で同じ日に開催して午前と午後に分けている。

(学校側)

⇒ 掛け持ちできるよう学校で話し合っただけで日程を決めているのでは。地域によっては同様のケースがある。本校では独自に決めている。参加希望が多い学校では中学校によって午前と午後に分けるケースや2日間で開催するところもある。

(小岩氏)

- 何年か前に、総合か何かの時間で、外部講師による講演会を、対象を高校生に加えて一般の方にも案内して開催したことがある。町で良い講師を見つけて、学校に派遣してもらって一般の方も交えて開催してはどうかか。

(学校側)

⇒ 座席が確保できれば可能と考える。

(森川氏)

- 学校に地域の方が来るきっかけになり、学校を見るきっかけになる。町の事業を高校とコラボすることは可能。今後、考えていくことを役場の中で共有したい。

(齋藤氏)

- そういう情報を新聞に載せるとみんなが見るのでは。良いことをやっているのに情報発信していないのでは。紫波町内だけでなく県内に発信して、盛岡から紫波に来てもらう取組を。

(森川氏)

- 町からプレスリリースということで、イベント前後に取材依頼を報道各社へ流しているところ。

(学校側)

⇒ 学校としても教育記者クラブをとおしてプレスリリースを出している。先日は県警とのコラボも数社が対応してくれたところ。

(岡崎氏)

- 学校の良さ・魅力を知ってもらうことと、ここにいる子ども達の満足感を高めていくことが必要である。そして子ども達から発信していくことで中学生へのアピールになる。先輩から「良いから来なよ」言われれば効くと思う。

これをやろうとすると先生方だけでは負担が大きすぎると思うので、新しいことを1つでも2つでもスタートする時に、町や我々に依頼いただければと思う。校長先生はルールがある中でやらなければいけないと思うので、教えていただきたい。

【その他（紫波町における次期総合計画について）】

(森川氏)

- 紫波町では令和9年度に策定する次の総合計画に向け、令和8年度に町民の方々を対象に意識調査を行う予定。紫波総合高校の生徒達にも調査を依頼したい。生徒達には携帯・タブレット等で回答してもらいたい。

(学校側)

⇒ 承知した。

令和7年度岩手県立紫波総合高等学校第2回学校運営協議会

日 時 令和7年10月24日（金）14：45～

場 所 会議室（本校2階）

次 第

I 開会の言葉

II 学校長あいさつ

III 議題

- 1 今後の県立学校に関する地域検討会議（第2回）盛岡地区②について
- 2 「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」「卒業研究」進捗状況
- 3 部活動の取扱いについて
- 4 学校評価アンケートの実施について
- 5 その他
- 6 質疑応答

IV 今後の日程について

第3回 令和8年1月中旬

V その他

VI 閉会の言葉

関係者名簿

【学校運営協議会委員】

※五十音順・敬称略

及川 仁	紫波第一中学校校長【学校】
大坪 賢心	紫波町建設部下水道課主任【同窓会】
岡崎 希裕	岡崎建設株式会社代表取締役社長【民間】
北田 友夫	長岡産直組合【地域・同窓会】
楠 美富栄	紫波町教育委員会学校教育課長【行政・学校】
小岩 美津子	元本校職員【地域】
齋藤 美穂子	元本校PTA会長【地域】
富岡 靖博	(株)トミオカ代表取締役【民間】
細川 恵子	特定活動非営利活動法人紫波さぷり【NPO代表】
森川 高博	紫波町総務企画部企画課長【行政】

【学校教職員】

大木 由里	校長
小野寺 丈晴	副校長
佐藤 律子	事務長
佐藤 貴生	総務主任、福祉・健康系列主任
近江 隆久	教務主任
鈴木 太一郎	生徒指導主任
久保 真由美	進路指導主任
齋藤 徳夫	保健・相談支援主任
駿河 朋仁	農場長、エコロジー・フード系列主任
畠山 多香子	ライフデザイン系列主任
佐々木 敬之	情報・経済系列主任

1 今後の県立高校に関する地域検討会議（第2回）盛岡地区②について

- (1) 開催日時・会場 8月20日（水曜日） 14時30分～16時30分 サンセール盛岡
- (2) 対象市町 八幡平市、岩手町、滝沢市、紫波町
- (3) 会議資料

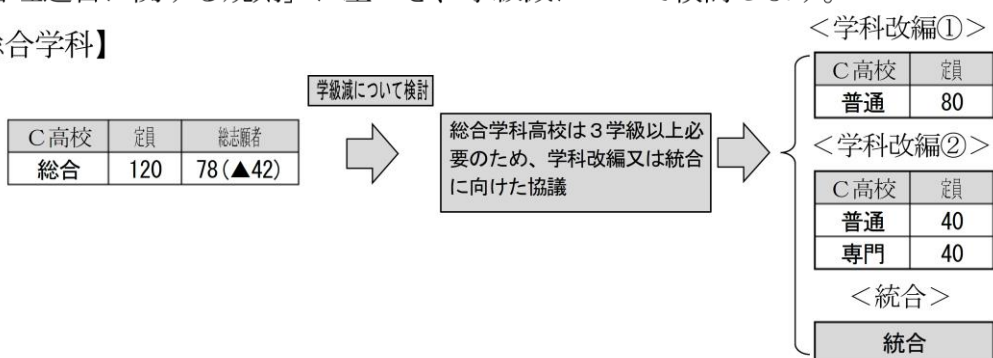
① 総合学科に関する内容の抜粋

(イ) 学級減、募集停止に関する規則及び基準

① 岩手県立高等学校の管理運営に関する規則

入学志願者の数が1学級定員（40人）以上不足する場合、「岩手県立高等学校の管理運営に関する規則」に基づき、学級減について検討します。

【総合学科】



総合学科高校

総合学科高校は、紫波総合高校、北上翔南高校、岩谷堂高校、一関第二高校の4校となっており、総合学科を併置する学校は、久慈翔北高校、北桜高校の2校となっています。

今後は、地域の産業構造やニーズを踏まえた系列編制や学びの内容となるよう、国の動向も注視しながら、系列の見直しや学びの在り方等について検討するとともに、総合学科高校の今後の在り方について、前期計画期間中に検証を行い、方向性を検討します。

なお、より良い教育環境の整備を図るため、総合学科高校に改編した成り立ちを踏まえつつ、学びの配置バランスを考慮するとともに、より広域での再編も視野に入れ、他の学科との併置校への再編等を検討し、進めます。

また、将来的に3学級規模の維持が困難と見込まれる場合には、学科改編又は統合に向けた協議を行います。

多くの総合学科高校に教育上特別な支援を必要とする生徒が在籍していることから、高校と特別支援学校との連携を深める等、これらの生徒への対応や、よりインクルーシブな教育環境の在り方について検討し、取り組みます。

② 盛岡地区に関する内容の抜粋

2 地区別プログラム（前期プログラム）

(1) 盛岡地区

[現状と課題]

- ・ 全日制課程については、県立高校は普通高校 10 校（専門学科併置校 2 校を含む）、専門高校 3 校（農業、工業、商業）、総合学科高校 1 校の 14 校設置しています。また、盛岡市立高校と私立高校が 8 校あります。
- ・ 定時制課程については、多部制・単位制高校を杜陵高校に設置し、夜間定時制課程を盛岡工業高校に併置しています。また、杜陵高校には、通信制課程を併置しています。
- ・ 令和 7 年度入試において全日制課程では 242 人の欠員が生じており、さらに中学校卒業予定者数は、令和 7 年 3 月から 12 年 3 月までの間に 281 人減少することが見込まれることから、学級数調整が必要です。

[再編の方向]

- ・ 生徒数の減少等に対応し、各高校における特色ある学びの機能を可能な限り維持しながら、規則及び基準に基づき学級数調整を行います。また、地域校においては、入学志願者の状況等を踏まえながら、存続について検討します。
- ・ 盛岡工業高校については、地域振興の方向性や産業構造、中学生の志望動向、高校卒業後の進路状況等を見据え、令和 10 年度に学科の改編を行ったうえで、令和 12 年度を目途に旧盛岡南高校の校舎及び施設等を活用した教育環境の整備をします。
- ・ 平舘高校については、令和 7 年度までの入学志願者の状況等を踏まえて、令和 9 年度に家政科学（家庭）科を募集停止とします。

学校別再編プログラム

学校名	令和7年度の状況		再編の方向		令和12年度の状況		
	全日制課程	学科・学級数	定員 (合格者数)	学級増減	内容等	学科・学級数	定員
盛岡工業	工業	7	280 (242)		令和10年度 学科改編 令和12年度 校舎移転	工業 7	280
平館	普通 家庭	1 1	80 (19)	▲1	令和9年度 家庭募集停止	普通 1	40

県立高校全日制課程の募集学級数等*と中学校卒業予定者数*

[盛岡地区]		前期計画期間中		
		令和7年度	令和8年度	令和12年度
県立高校	学校数	14校	14校	14校
	募集学級数	65学級	65学級	64学級
	募集定員	2,600人	2,600人	2,560人
中学校卒業予定者数		3,981人	4,003人	3,700人

*学級数の増減、募集停止に関する規則及び基準により学校数、募集学級数、募集定員は変更となる場合があります。

○ 後期計画期間中の方向性

- 令和17年度の県立高校全日制課程の学校数は10～12校、募集学級数は45～56学級、募集定員は1,800～2,240人であり、令和17年3月末の中学校卒業予定者数は2,917人と見込まれます。多くの学校で定員割れすることが予想され、学科改編、学系又は系列の見直し及び機能の維持が困難となった学校の統合等の検討を想定しています。
- 盛岡市内の高校については、一定規模を確保するため、大規模な統合等の検討を想定しています。
- 定時制課程については、全県的なバランスに考慮しながら、通信制課程との連携や今後の在り方等について検討します。

※ 前期計画期間 令和8～12年度の5年間
後期計画期間 令和13～17年度の5年間

(4) 紫波町関係者の発言要旨

① (株) トミオカ 富岡 靖博 様

- ・ 地域産業や子供たちに配慮した案と評価している。
- ・ 総合学科への理解が、地域や保護者に理解されていないのではないか。
- ・ 紫波町と連携・支援しながら「交通費が出る」「給食が出る」など考えたい。
- ・ 「校名変更」でイメージ一新してはいかがか。

② (株) 高橋農園 高橋 淳 様

- ・ 現場に足を踏み込んでいくと課題が見えるが、見きれていないのでは。
- ・ 農業は変革の時代、子ども達が課題を見つけて解決していく力が必要。
- ・ もっと学校の特色を発信してほしい。

(本校に関する個別発言はなし)

③ 紫波町教育委員会 侘美 淳 様

- ・ 正解と納得解という言い方があるが、今回の案は町長とともに納得解。
- ・ 総合学科高校の学級減の案が示されたが、そもそも30年ほど続けた総合学科について、在り方を県として検証すべき。
- ・ 町としても危機感を持って、今後について学校と一緒に考えていきたい。

(5) 県教育委員会 西川高校改革課長のコメント (総合学科に関する内容)

- ・ 今回の案では、総合学科に関する学級減について、具体例を示した。
- ・ 前期計画期間 (令和8～12年度) 中に総合学科について検証し、検証結果を踏まえ、後期計画に取扱い (在り方) を公表する。

【参考】再編プログラム総括表

設置タイプ等	年度	前期計画期間（令和8年度～令和12年度の5年間）					後期計画	
		令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)	令和11年度 (2029年)	令和12年度 (2030年)	令和13 ～17年度
統合等 ※2	専門高校			宮古商工 宮古水産 一体整備			盛岡工業 校舎移転 (旧盛岡南)	水沢工業 一関工業
	総合的な 専門高校							
	普通科※1・専 門学科併置 高校					遠野 遠野緑峰		
	総合学科・専 門学科併置 高校	久慈翔北 [久慈東、 久慈工業]						
	普通高校※3	南昌みらい [盛岡南、 不来方]		(大迫) (大野)	水沢 金ヶ崎 (普▲1)		(宮古北)	
	定時制・ 通信制高校				杜陵奥州校 定時制・通信制 校舎移転 (金ヶ崎(校舎))			
学科改 編等	学科改編 コース・系列 見直し			黒沢尻工業	盛岡工業 岩谷堂	一関第一		
	学科改編 コース・系列 見直し (学級減)※3			平舘 遠野緑峰 大東	花北青雲 高田 大船渡東 久慈翔北	(釜石商工)		
学級増 減	学級減※3 (管理運営 規則による もの)	北上翔南	金ヶ崎 大東 軽米 福岡	(宮古)	(釜石) (岩泉) (北桜)	(黒沢尻北) (千厩)	(一関第一)	
	学級増	西和賀						
全日 制	学校数※4	59	59	59 (57)	58 (56)	57 (55)	57 (54)	44～48
	学級数※4	213	209	206 (203)	201 (195)	201 (192)	201 (190)	142 ～163
	募集定員※4	8,520	8,360	8,240 (8,120)	8,040 (7,800)	8,040 (7,680)	8,040 (7,600)	5,680 ～6,520
	R7年度比※4		▲160	▲280 (▲400)	▲480 (▲720)	▲480 (▲840)	▲480 (▲920)	▲2,840 ～▲2,000
【参考】	中学校卒業 予定者数	9,715	9,609	9,256	9,123	9,079	8,755	6,839
	R7年度比		▲106	▲459	▲592	▲636	▲960	▲2,876

※1 普通科には、理数科を含みます。

※2 校名の下線は、統合、集約後の校舎利用予定校です。

※3 ()の学校の学級減・募集停止の時期は、各校への進学率及び中学校卒業予定者数等をもとにした推計(参考資料p.17参照)であり、学級減・募集停止を決定するものではありません。

※4 前期の学校数、学級数、募集定員には、本計画の学級数の増減、募集停止に関する規則及び基準(p.7～9参照)による学校数、学級数、募集定員の増減は含んでいないため、状況により数値が変更となる場合があります。()の数は、※3の推計を含めた数です。

2 「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」「卒業研究」進捗状況

(1) 産業社会と人間（1年次）週2時間

実 施 内 容	
地域を知る取組	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日詰平井邸への訪問 <ul style="list-style-type: none"> ・ 代表取締役 平井佑樹様からの講話 ・ 施設見学 ○ 学校～日詰商店街までの奉仕活動（ゴミ拾い） <p style="text-align: right;">（5月）</p>
SDGs（持続可能な開発目標）に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「みらい甲子園」※¹のエントリーに向けた取組 <ul style="list-style-type: none"> ・ テーマ設定 ・ 座談会の実施 ⇒ 紫波町内外の有識者13名をアドバイザー等として招聘 ⇒ いわてカーボンフリー・アクション（ICFA）※²と連携 ・ 文化祭での展示（中間報告） ・ 12月10日までに20班をエントリー予定 <p style="text-align: right;">（6月～）</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「おにぎりアクション」※³への投稿に向けた取組 <ul style="list-style-type: none"> ・ 科目「家庭基礎」との連携 ・ 文化祭での展示 ・ 11月15日までに投稿予定 <p style="text-align: right;">（9月～11月）</p>
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2年次以降の系列選択に向けた取組 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各系列についての説明 ・ 各系列体験授業の実施 ○ 進路ガイダンス ○ 使用教科書 <p style="text-align: right;">（6月～）</p>

※1 全国の高等学校を対象に、高校生の着眼点や発想、独自性から地域特有の課題解決策を出すアイデアコンテスト。都道府県やエリアごとに大会を実施、岩手県大会はIBC岩手放送が共催。

※2 岩手大学、岩手県立大学、富士大学の学生有志が参画し、いわての脱炭素化に向けた広報活動を行う、県内大学の横軸連携による学生プロジェクトチーム。

※3 おにぎりの画像をSNS等に投稿すると、1枚の画像投稿につき給食5食分に相当する寄付（100円）を協賛企業が提供し、認定NPO法人TABLE FOR TWO Internationalを通じてアフリカ・アジアの子どもたちに給食がプレゼントされる取組。

(2) 総合的な探究の時間（2年次）週1時間

実 施 内 容	
地域探求講座	<p>紫波町を中心とした地域の発展を担う人材の育成として実施するもので、地域社会を構成する一員と、地域産業を支える人材となることを目的とする。具体的には、「地域貢献や働くことを学ぶ」というテーマで地域おこし協力隊の隊員からお話を聞く場を設ける。3年次には各生徒がテーマを選択し、卒業研究を実施するが、テーマ選択の参考となることを期待するものである。</p> <p style="text-align: right;">（11月）</p>
ジョブカフェいわてによるガイダンス	<p>就職の心構え（就職活動の近年の状況や全体像、スケジュールを知る） 「自分」を知る（自己分析のポイントを知る） 「仕事」を知る（「業種」と「職種」を理解する） 求人票の見方（企業情報の収集のポイントを理解する） インターンシップ事前セミナー（みだしなみ、自己紹介、仕事の受け方）</p>

	(7月・12月)
探究プログラム (株式会社NOLTY プランナーズの 探究プログラムの 活用)	3年次の卒業研究に向けて、課題を発見し、解決するために必要な資質・能力を育成し、探究活動の中で、自己の生き方や在り方を考える機会とする。このプログラムは、「生徒の興味関心」「課題設定」「情報収集」「整理分析」「まとめ表現」「振り返り」までがフレームワーク化されており、2年次では地域課題をテーマの探究手法を学ぶ。 (4月～6月)
上記以外の主な 内容	調べ学習(防災について 4・5月) 保健講話(9月) 小論文テスト(10月) 食育講演会(10月) SPIテスト(1月) 年金セミナー(1月) 金融経済セミナー(2月)

(3) 卒業研究(総合的な探究の時間)(3年次)週2時間

実 施 内 容	
卒業研究	<p>「紫波希望ヶ丘学」をテーマに系列で学んだことを活かしながら、個人で研究を行う。調査・研究等の過程において、課題の発見と解決に必要な知識と技術を身に付け、実社会や実生活と自己との関わりから問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめや表現ができるようになることを目的とする。さらに、研究に主体的・協働的に取り組むとともに、中間報告などを通して互いの良さを尊重しあい、結果と考察から新たな価値を創造し社会に役立てようとする態度を育成する。</p> <p>【講演会等】</p> <p>①5月 新聞の活用方法(岩手日報出前授業) 角田 元 氏</p> <p>②5月 図書館文献の活用法(紫波町オガール図書館を訪問) 司書からガイダンスを受けたあと文献調査、借用</p> <p>③6月 テーマ別座談会(地域の方が31名来校) 研究活動で集めた情報をまとめて、地域の方々へ表現することと、地域の方々から専門的・実践的なお話をいただき、研究活動の参考とした。</p> <p>④9月 伝わるプレゼンテーション 北上コンピュータ・アカデミー 小笠原 慎 氏 菅原 朝陽 氏</p> <p>⑤10月 伝わる話し方 HARMONIA 村井 沙織 氏</p> <p>【研究活動の流れ】</p> <p>4月 研究テーマの検討</p> <p>5月 研究テーマの決定、研究・調査を進める</p> <p>6月 文献調査、テーマ別座談会</p> <p>7月～9月 研究・調査</p> <p>10月 中間報告(文化祭で展示発表)</p> <p>11月 研究・調査</p> <p>12月 3年次向けの研究発表会(発表者10名)</p> <p>1月 1、2年次及び地域の方々を対象とした研究発表会 (発表者6名)</p> <p>1月17日 卒業研究提出〆切(全員)</p>
卒業研究以外	SPIテスト、進路別ガイダンス2回、主権者教育、小論文テスト、金融セミナーを実施

3 部活動の取扱いについて

(1) 部活動の統廃合について

生徒数及び配置教員の減に伴い部活動の統廃合を進めていたところであるが、同時に学校の魅力を失うことにもつながることから、令和7年度後期生徒総会において生徒会規約を改訂し、部活動は廃止とせずに休止とすることとした。

【参考】部活動数の推移

	文化部数	運動部数	廃止になった活動
令和3年度	8	12	
令和4年度	7	11	剣道（郷土芸能を委員会化）
令和5年度	7	9	卓球、ソフトテニス
令和6年度	7	8	ソフトボール
令和7年度	7	8	

(2) 選手登録に係る補助額の上限撤廃について

運動部活動においては、大会出場する際に、競技団体等への選手登録が必須であるが、これまでは補助額の上限が設定されていたことから、一部の部活動において選手登録する際には自己負担が発生していた。

生徒会として部活動の加入を奨励する観点から、令和7年度後期生徒総会においてこの取扱いを改め、競技団体等への選手登録に対する補助額の上限を撤廃することとした。

4 学校評価アンケートの実施について（概要）

(1) 目的について

- 本校の教育活動に対し適正な評価を多角的に行う事で、学校運営の改善と活性化を図る。
- 評価を通して主体的な教育活動を推進し、保護者・地域との相互理解と相互啓発の態勢を構築する。
- 評価結果を公開することで、地域社会への説明責任を果たし、開かれた学校作りを促進する。

(2) 対象について

生徒、保護者、教職員、関係者（学校運営協議会委員も含む）

(3) 方法について

Microsoft Formsを利用

(4) 評価基準について

- 評価基準を、A「そのとおり」、B「だいたいそのとおり」、C「やや違う」、D「違う」の客観式4段階とし、これに意見等の記述欄も加える。
- 評価結果の分析と考察を行い、課題と改善点について提言する。

(5) 公表について

- 評価結果については、学校運営協議会への報告事項とする。
- 評価結果については、PTAに関わる諸会合やその他の場で、説明責任を果たすとともに、継続的に意見の集約に努める。
- 生徒・保護者へは評価結果に自由記述の内容を添えて、PTA会報、及び学校ホームページ上で公表する。

(6) 日程について

日程	内容
11月下旬	・ アンケート周知
11月下旬～12月上旬	・ アンケート入力および回収
1月	・ 定例職員会議での報告・振り返り ・ 学校運営協議会での報告・協議
2月～3月	・ 学校ホームページでの公表 ・ PTA会報での公表

4 その他

○ 中学校説明会（8/1実施）の参加者について 当日の参加者

	中学生	保護者	引率教員	計
令和7年度	107	45	7	159
（昨年度）	（101）	（52）	（8）	（161）

【参考】昨年度中学校説明会参加者における実際の入学者数について （近隣中学校のうち、確認ができた学校のみ掲載）

中学校名	今年度 入学者数	中学校説明会 参加者数	うち 本校入学者数	中学校説明会 不参加の入学者数
紫波第一	30	20 ⇨	14	
				16
紫波第二	2	4 ⇨	1	
				1
矢巾	4	15 ⇨	2	
				2
乙部	8	9 ⇨	5	
				3
石鳥谷	3	6 ⇨	2	
				1

令和7年度第3回学校運営協議会（R08.01.22）会議録（概要）

岩手県立紫波総合高等学校

日 時：令和8年1月22日（木） 16：00～17：30

会 場：岩手県立紫波総合高等学校会議室

出席委員：及川仁氏、岡崎希裕氏、北田友夫氏、楠美富栄氏、小岩美津子氏、富岡靖博氏、
細川恵子氏、森川高博氏

学 校 側：校長、副校長、事務長

Ⅲ 議題

1 経営計画 今年度の重点目標達成状況について

（学校側）

- 資料2～3ページに基づき、学校経営計画「目指す学校像」に関する重点項目について、学校評価（生徒・教職員・保護者等アンケート）の結果を報告した。
 - ・ 学習指導の充実については、目標値90%に対し生徒回答94%と目標を達成。
 - ・ 生徒指導の充実については、目標値80%に対し、85%と達成。いじめ防止基本方針に基づく未然防止・早期発見の取組が評価。
 - ・ 進路指導の充実については、就職内定率は100%。進学等で未決定者が2名おり、全体で96.8%。
 - ・ 保護者・地域との連携については、目標値90%に対し86%で未達。家庭・PTAとの連携について、今後工夫が必要と認識。
 - ・ 開かれた学校づくりの推進については、学校説明会参加者数は目標180名に対し159名（うち生徒107名）。生徒数は昨年度より増加したが、全体では減少。
 - ・ 不適切な指導の根絶については、目標値80%に対し93%と達成。教職員が生徒を認め、褒めながら接していると評価。
 - ・ なお、「開かれた学校づくり」については、前回協議会で出された意見を踏まえ、新たな取組を検討・実施していく考え。まずは学校を知ってもらい、来校してもらうことが重要であると認識。

（学校側）

- 資料4ページ、今年度初めて実施した学校運営協議会委員に対する学校評価アンケートは6人の方が回答いただいたところ。答えにくい質問があったことから、来年度は無回答を可能とするよう設定する方向。資料5ページは生徒・保護者と教職員それぞれの回答の対比表。今後は、PTA会報等に掲載し、周知を図っていく。

（岡崎委員）

- 目標値（80%、180名等）の設定根拠はどのようになっているか。数値を達成したか否かのみで評価する議論には意味が薄いのではないか。数値目標を設定するのであれば、それを達成するための具体的な計画や取組を考えることが重要である。

学校説明会参加者数180名という目標自体は前向きな数値であり、達成に向けた工夫や挑戦が学校の活性化につながる。

(学校側)

⇒ 目標値は前年度実績等を参考に設定しているが、数値自体にどこまで意味があるかについては課題意識がある。達成状況を見る一つの目安として活用している。数値の達成そのものよりも、目標達成に向けた具体的な取組を進めていくことが重要である。

委員からの意見を踏まえ、今後の学校運営・広報活動に反映していく。

2 今年度の学校の状況について

(学校側)

○ 資料に沿って説明を行った。

- ・ 生徒在籍数・出欠状況年度当初の在籍数は253名であったが、現時点では245名となっている。毎年一定数の退学・転学等があるのが現状である。欠席率・遅刻率は全体として前年よりやや減少しているものの、高い水準である。背景として、悩みを抱える生徒が多いことが影響していると考えられ、個別に寄り添った指導を継続している。
- ・ 3年次生の進路状況は、直近で内定が決まった生徒がおり、就職希望者は100%内定。就職先は県内事業所や県外企業の県内支店が多く、地元志向の強い学校の特色が表れている。進学は四年制大学6名、短期大学2名ほか、資料記載のとおり。未定の1名は一般入試に向けて今後受験予定。もう1名は競輪選手を目指すため、今年度は進学・就職を行わない。

(森川委員)

○ 就職希望者が100%内定となった点を高く評価したい。生徒が地元企業へ就職し、地域を支えようとする姿勢を感じる。企業側から見た「紫波総合高校の生徒の強み」などの評価があれば共有し、生徒の自己肯定感向上や学校の魅力発信につなげてはどうか。

(学校側)

⇒ 企業からは「真面目に働く」「意欲的」といった評価を聞いている。来年度の採用を見据えて、個別に学校を訪問する企業もあり、生徒の評価は高いと感じている。こうした評価を生徒の肯定感につなげる取組を今後進めていきたい。

(岡崎委員)

○ 欠席率・遅刻率の改善や、問題行動生徒数の大幅減少について、その要因はどう分析しているか。

(学校側)

⇒ 問題行動が多い生徒が退学・転学するケースもあり、結果として数値が改善する側面がある。不安を抱える生徒への寄り添いを重視した指導を行っている。学年が上がるにつれて生徒が成長し、落ち着いてくる傾向も見られる。教職員の継続的な指導・支援が数値改善につながっていると考えている。

(楠美委員)

○ 就職者47名について、系列と就職先との結びつきについてはどのようになっているか。興味関心に基づく系列選択が、どのように進路につながっているかに関心がある。

(学校側)

⇒ 特に、福祉・健康系列では社会福祉法人への就職が多く、学びが進路に直結している。エコロジー・フード系列では県立農業短期大学校への進学実績がある。家庭科（ライフデザイ

ン) 系列では、保育士を目指し短大・四大へ進学する生徒がいる。系列ごとの特色が進路に反映されている生徒が存在する。

(富岡委員)

○ 大学進学の中で、指定校推薦で進学する生徒はどれくらいいるのか。

(学校側)

⇒ 指定校推薦で進路を決定した生徒は一部にとどまる。多くが公募制推薦である。

3 地域と連携した事業活動等について

(学校側)

○ 資料9ページ以降に基づき、授業に加えて地域と連携して実施している事業・活動について説明した。教員による授業に加え、地域の方々の協力を得ながら多様な学習活動を行った。

- ・ 各年次での取組においては、1年次「産業社会と人間」SDGsみらい甲子園への応募に向け、地域の方々の協力を得ながら取組を実施。本校から1チームが岩手県大会ファイナル(3月7日、アイーナ)に進出し、現在発表に向けて活動中。IBCが岩手県事務局として関与しており、報道される見込み。総合的な探究の時間では、特に3年次では、6月25日の発表会に30名を超える地域関係者が来校。紫波町役場の森川様の御協力もあり、最終的に本日の卒業研究発表につながった。
- ・ 系列ごとの地域連携においては、エコロジー・フード系列で、生産物の販売、郵便局・福祉施設での植栽協力などを実施。ライフデザイン系列で、地域事業「畑の台所」への参加(調理補助等)。「OneDayChef」を企画し、20組限定でコース料理を提供。福祉・健康系列では、介護実習や交流実践学習を実施、11月25日及び12月2日には福祉施設利用者を招き、生徒主体の交流会を実施。
- ・ その他、保健講話、企業見学、防災講演会等を実施。今年度新たに、外部講師を招いた「いじめ防止プログラム(心の健康・絆づくり)」を開始。ボランティア活動についても一覧にまとめたが、把握しきれていない活動もある。
- ・ 多くの地域関係者の協力に対し、感謝申し上げたい。

(岡崎委員)

○ 教員の準備・段取りは大変だと思う。取組内容を高く評価したい。

(森川委員)

○ 本日の卒業研究発表会の感想として、生徒が身近なテーマを設定し、調査と考察を通して結論に至る姿勢が身についている。来年度に向け、取組開始時期を早めることで、より深い学びにつながるのではないかと。

(細川委員)

○ 福祉分野での交流学習は、障がいのある方と直接関わる貴重な経験であり、継続が重要である。利用者側も受け入れに慣れ、相互理解が進んでいる。今後も協力を継続したい。

(北田委員)

○ 視覚障害の理解体験など、福祉体験学習を高く評価。年1回にとどまらず、見える形で継続的に実施してはどうか。

(学校側)

⇒ 福祉健康系列の取組は、県内でも高い水準で実施されていると認識。一方で、経済・情報系列については、今後さらに地域との連携を深めたいと考えている。

(小岩委員)

- 卒業生等を講師として招く取組をしてはいいかがか。eスポーツ分野や競輪選手など、活躍している紫波町出身の方や卒業生の講演などを、生徒のみならず地域住民も共有できる場づくりを期待している。

4 その他

5 質疑応答

【県外からの留学について等】

(北田委員・小岩委員)

- 本日の岩手日報の記事を踏まえ、県外からの留学生受け入れについて検討してはいいかがか。文化・異なる背景を持つ生徒が在籍することで、学校に刺激や相乗効果が生まれるのではないか。

(森川委員)

⇒ 現時点で町として高校留学を実施する具体的な方針は持っていない。県立高校であるため、実施には県教育委員会との調整が不可欠。異文化交流による教育的効果や学校の魅力向上の可能性は感じている。一方で、受け入れ体制(学校・地域・生活支援)の負担が大きく、ハードルは高い。まずは今ある資源・強みを生かす取組を検討すべきかと考える。特に「自転車競技」は全国・世界へつながる大きな強みであり、投資の切り口になり得る。

(北田委員)

- 校長先生の前任校である大迫高校での県外留学での、課題点について教えてほしい。

(学校側)

⇒ 大迫高校では、花巻市が主体となり、宿泊施設の整備、留学生の生活費・旅費等を全額市が負担して実施している。特色(神楽文化)に惹かれて来る生徒が多い。ただし、大人が目がある環境でない場合、生活面・精神面の課題が生じやすい。不登校傾向が再発するケースもあり、継続が難しいという課題がある。24時間の見守り体制を含めた十分なバックアップが不可欠。

(北田委員)

- 東根温泉の活用可能性はいいかがか。少人数でも受け入れられる形でのモデル検討を提案。自転車やバレーボールを軸にした、新たな高校の可能性はあるのではないか。

(学校側)

⇒ 外部からの生徒が来ることで、在校生が自分たちの地域文化を再評価する効果は大きい。ただし、運営面の負担は非常に大きく、慎重な検討が必要。

【PRの提案について】

(富岡委員)

- 本校は定員120名となったが、南昌みらい高校統合後、今年度は志願者数に反映されなかった。学校の中身は高く評価されているにもかかわらず、選ばれていない現状への疑問がある。進学

もできる。就職もできる学校。高校受験者数を増やすために、小中学生への早期・継続的なアプローチが重要性ではないか。

(及川委員)

- 今年の希望者が前年比で大きく減少しており、危機感がある。課題は「中身」ではなく「発信の方法」ではないか。

中学校の進路説明会に高校生自身を連れて行き、「楽しい」「こんな学びをしている」ということを高校生が生の声で中学生に伝えるのはいかがか。探究活動として、「学校の魅力発信」「志願者数を増やすプロジェクト」を行うのも有効ではないか。SNS（公式インスタグラム）や、中学校の校内放送の活用もどうだろうか。高校生が中学校に来て、校内放送を行うとか。

(岡崎委員)

- 総合学科であるがゆえに、進学先・就職先やどんな力が身につくのが中学生・保護者に伝わりにくいのではないか。高校の受験者を発信の方法を一点に絞って、校内で議論願いたい。

(学校側)

⇒ 大人よりも高校生自身が語る方が、説得力・親近感がある。当事者意識を持たせることの重要性に共感する。

(小岩委員)

- 私立高校も無償化になり、中学生には影響はあるものか。

(及川委員)

⇒ 詳しく調べている訳ではないが、私立を第一希望とする生徒は着実に増えている。

【昼食（給食）の提供について】

(委員・町関係者)

- 町が実施した生徒・保護者・教職員対象の給食アンケート結果を公表。賛否両論があり、食の自由、食べる場所の自由を求める声もある。

(岡崎委員)

- 全員給食でなくてもよく、選択できる昼食環境があること自体が魅力になる。他の高校での事例を研究する必要があるのではないか。例えば、県外留学にかかる費用（仮に1000万円規模）と比較すれば、同額を「在校生・志願者増」に使う方が効率的ではないか。

(小岩委員、岡崎委員)

- 給食以外にも、廉価で提供できる食堂など選択肢は考えられる。一緒に食べることを嫌う生徒もいるので。生徒にとって、選択肢があることが学校にとってプラスになるのでは。

(森川委員)

- 町として、昼食環境の充実が学校の魅力化の一つになり得ると認識。今後、費用対効果や調査を踏まえ検討していく必要がある。

IV その他（情報提供）

(学校側)

- 北日本銀行「きたぎんSDGs私募債」を活用した寄付が、地域企業から寄せられた。北日本銀行プレスリリースの資料を用いて説明。

令和7年度岩手県立紫波総合高等学校第3回学校運営協議会

日 時 令和8年1月22日（木）16：00～

場 所 会議室（本校2階）

次 第

I 開会の言葉

II 学校長あいさつ

III 議題

1 経営計画 今年度の重点目標達成状況について

2 今年度の状況について

3 地域と連携した授業・活動等について

4 その他

5 質疑応答

IV その他

V 閉会の言葉

関係者名簿

【学校運営協議会委員】

※五十音順・敬称略

及川 仁	紫波第一中学校校長【学校】
大坪 賢心	紫波町建設部下水道課主任【同窓会】
岡崎 希裕	岡崎建設株式会社代表取締役社長【民間】
北田 友夫	長岡産直組合【地域・同窓会】
楠 美富栄	紫波町教育委員会学校教育課長【行政・学校】
小岩 美津子	元本校職員【地域】
齋藤 美穂子	元本校PTA会長【地域】
富岡 靖博	(株)トミオカ代表取締役【民間】
細川 恵子	特定活動非営利活動法人紫波さぷり【NPO代表】
森川 高博	紫波町総務企画部企画課長【行政】

【学校教職員】

大木 由里	校長
小野寺 丈晴	副校長
佐藤 律子	事務長
佐藤 貴生	総務主任、福祉・健康系列主任
近江 隆久	教務主任
鈴木 太一郎	生徒指導主任
久保 真由美	進路指導主任
齋藤 徳夫	保健・相談支援主任
駿河 朋仁	農場長、エコロジー・フード系列主任
畠山 多香子	ライフデザイン系列主任
佐々木 敬之	情報・経済系列主任

Ⅲ 議題

1 経営計画 今年度の重点目標達成状況について

令和7年度 岩手県立紫波総合高等学校経営計画

校長：大木由里

1 校訓・教育目標		<p>～生徒が希望に燃え、明るく、地域から信頼され続ける学校づくり～</p> <p>校訓：「知を求め ところ豊かに たくましく」</p> <p>教育目標：1 人間としての生き方を考え、生涯にわたり学び続けようとする意欲を育てる。 2 正しく判断し、他者を尊重しながら自己実現を目指そうとするところを育てる。 3 将来の職業や生活を見通し、人生をたくましく切り拓こうとする力を育てる。 4 持続可能な社会のために、自己及び社会の課題解決に向け努力する人間を育てる。</p>		
2 ス ク ー ル ・ ポ リ シ ー	(1) 育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・問いを立て、解決の手立てを見いだせる力を育成します。 ・他者と協働できる力を育成します。 ・多様な価値観を尊重できる力を育成します。 ・自らを律することができる力（基本的な生活習慣の定着、整容を正す、規則の順守等）を育成します。 		
	(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・筋道立てて考える力を育てるために、基礎学力の定着を図ります。 ・課題探究能力の育成を図るために、「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」「卒業研究」を体系づけて学習します。 ・地域の産業振興を踏まえ、系列の特性を生かす形で岩手県立大学・岩手県立農業大学校、地方振興局等と連携し、高度で専門的な分野を学びます。 ・地域貢献を念頭に、紫波町・オガールとの連携を密にし、地域の人材を活用した学びや体験的な学びを実践します。 		
	(3) 入学者の受け入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・好奇心旺盛で、課題解決を目指す探究心に厚い生徒 ・コミュニケーションを大切にする（他者を認めて相手に寄り添える）生徒 ・失敗を恐れず、チャレンジ精神で物事に取り組み、ゴールに向けて努力を惜しまない生徒 ・生まれ育った地域（岩手県や紫波地域）について学びを深めたい生徒。 		
3 魅力化協働パートナー		紫波町 株式会社オガール 株式会社岩手バレーボールコミッション 紫波町内各中学校		
4 目 指 す 学 校 像	(1) 今年度の重点目標	重点目標	達成指標	達成率 括弧内はR06年度
		ア 学習指導の充実 常に授業力の向上に努め、社会が求める基礎学力と学習習慣の定着を図る。	・ 学校評価の生徒対象アンケートで「先生方は、わかりやすく、力のつく授業を行っている」と答えた生徒の割合【90%以上】	94% (93%)
		イ 生徒指導の充実 実効的に機能する「学校いじめ対策組織」を構築し、組織的にいじめの未然防止・適切な対処に当たる。	・ 学校評価の生徒対象アンケートで「本校のいじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止・早期発見の取組がなされている」と答えた生徒の割合【80%以上】	85% (86%)
		ウ 進路指導の充実 生徒の希望を生かした進路実現のため、進路指導力の向上に努める。	・ 進路目標達成【95%以上】	就職100% 進学96.8% (ともに100%)
		エ 保護者・地域との連携 保護者・地域と連携し、期待に応え、貢献することによって信頼され続ける学校にする。	・ 学校評価の保護者対象アンケートで「学校は、家庭との意思疎通やPTAとの連携を図っている」と答えた保護者の割合【90%以上】	86% (89%)

	<p>オ 開かれた学校づくりの推進 学校の「魅力」を外部へ積極的に発信する。 ・ 学校説明会参加者数</p>	<p>【180名以上】</p>	<p>159名 (161名) うち生徒 107名 (101名)</p>
	<p>カ 不適切な指導の根絶 生徒を個人として尊重し、不適切な指導を根絶する体制を組織として構築する。</p>	<p>・ 学校評価の生徒対象アンケートで「先生方は、厳しく指導しながらも、良いところを褒めたり認めたりしながら接してくれる」と答えた生徒の割合【80%以上】</p>	<p>93% (87%)</p>
<p>(2) 取組方針</p>	<p>ア 学習指導の充実を図るための取組 (ア) ユニバーサルデザイン授業やアクティブラーニング、全教職員によるICT機器の活用 (イ) 目標に準拠した観点別評価の実施 (ウ) 計画的な課題による家庭学習習慣の定着 (エ) 資格取得目標の設定と積極的な挑戦 (オ) 授業公開や授業研究会への年1回以上の研修参加 (カ) 実力テストでの正答率の向上 (キ) 「情操・健康教育」「主権者教育」「復興教育」の取組</p> <p>イ 生徒指導の充実を図るための取組 (ア) 基本的な生活習慣の確立（挨拶、整容、マナー、清掃）、問題行動ゼロ (イ) 「生活に関するアンケート」（年3回）、保護者アンケート（年2回）等によるいじめの早期発見と解消に向けた対処 (ウ) 部活動・対外活動の活性化（目標設定の共有、リーダーの育成、奉仕の精神、自己肯定感や自己有用感の向上） (エ) 一人ひとりの生徒理解と支援に配慮した指導（心身の健康管理と相談体制の確立、通級による指導の実施）</p> <p>ウ 進路指導の充実を図るための取組 (ア) 自己実現の志を育み、個々の進路目標を早期に確立させる (イ) 就業への理解と意識を高める（インターンシップ、企業見学） (ウ) 職業講話、進路ガイダンスの充実と情報発信 (エ) 各種個別指導の充実（小論文、面接、添削） (オ) 社会人としての基礎力を養う（コミュニケーション能力、協調性、忍耐力）</p> <p>エ 保護者・地域との連携を図るための取組 (ア) 学校運営協議会、地域・保護者からの要望や課題に対応する (イ) 地域の行事や諸事業に積極的に参加し、相互理解と交流を深める</p> <p>オ 開かれた学校づくりの推進を図るための取組 (ア) 「ソーシャルスキル基礎」「総合的な探究の時間」「各系列の授業」における地域資源の活用（地域理解、思考、発信） (イ) 学校案内、学校通信、ホームページ、SNS等による情報発信 (ウ) 中学生学校説明会や高校説明会で中学生や保護者に本校総合学科の理解を図る</p> <p>カ 不適切な指導の根絶を図るための取組 (ア) 全教職員等が子どもの権利条約等についての理解を深め、生徒の人権を尊重した指導を行う (イ) 不適切な指導の根絶に向けた校内研修を実施する</p>		

令和7年度 学校評価アンケート集計（学校評議員）

回収率 60%

[6/10人]

《凡例》 A そのとおり B だいたいそのとおり C やや違う D 違う

※ 数値の単位は%

本表の割合は小数点以下を四捨五入して表示しているため、各項目の合計が100%とならない場合があります。

No	評価項目	A	B	C	D	AB計	CD計
1	(学校運営) 本校は、地域から信頼され続ける学校づくりを推進している。	33 ()	67 ()	0 ()	0 ()	100 ()	0 ()
2	(学校運営) 本校は、雰囲気明るく、生徒にとって居心地が良い。	33 ()	67 ()	0 ()	0 ()	100 ()	0 ()
3	(学習指導) 職員は、厳しく指導しながらも、良いところを褒めたり認めたりしながら生徒の自己肯定感を高めるような指導を行っている。	33 ()	67 ()	0 ()	0 ()	100 ()	0 ()
4	(学習指導) 本校は、生徒の学力向上に取り組み、実態に応じた効果的な指導を行っている。	50 ()	50 ()	0 ()	0 ()	100 ()	0 ()
5	(学習指導) 本校の学習についての評価は適切である。	50 ()	50 ()	0 ()	0 ()	100 ()	0 ()
6	(生徒指導) 本校は、学校の決まり、生活の決まりを守るよう適切に指導している。	33 ()	67 ()	0 ()	0 ()	100 ()	0 ()
7	(生徒指導) 本校は、あいさつ、整容を含む基本的な生活習慣の指導を適切に行っている。	33 ()	67 ()	0 ()	0 ()	100 ()	0 ()
8	(生徒指導) 本校は、様々な問題行動の防止のための早期指導を学校全体で行っている。	33 ()	50 ()	17 ()	0 ()	83 ()	17 ()
9	(生徒指導) 本校は、いじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止・早期発見の取組をしている。	50 ()	50 ()	0 ()	0 ()	100 ()	0 ()
10	(生徒指導) 本校は、部活動や行事、ボランティア活動等に取り組み、魅力を高めている。	33 ()	67 ()	0 ()	0 ()	100 ()	0 ()
11	(進路指導) 本校は、進路目標の達成に向けた取組(情報提供やガイダンス、課外授業や補習授業など)を適切に行い、指導の充実を図っている。	50 ()	50 ()	0 ()	0 ()	100 ()	0 ()
12	(進路指導) 本校は、生徒の進路相談に適切に対応し、指導の充実を図っている。	50 ()	50 ()	0 ()	0 ()	100 ()	0 ()
13	(健康安全) 本校は、環境整備や安全管理を適切に行っている。	50 ()	50 ()	0 ()	0 ()	100 ()	0 ()
14	(健康安全) 本校は、健康指導や保健指導を適切に行っている。	50	50	0	0	100	0
15	(総務) 本校は、家庭との意思疎通やPTAとの連携を図っている。	50	50	0	0	100	0

16	(総務) 本校は、必要な情報を発信し、保護者への説明責任を果たしている。	50	50	0	0	100	0
17	(総務) 本校は、事故、事件、災害等に対して迅速かつ適切な対応ができるよう役割分担が明確化されている。	50	50	0	0	100	0
18	(研修) 本校は、研修の機会が保障されるなど、教職員の意欲を高め、能力向上と人材育成の取組を行っている。	33 ()	67 ()	0 ()	0 ()	100 ()	0 ()
19	(研修) 本校は、教職員の倫理観・使命感を高め、法令遵守する取組を行っている。	50 ()	50 ()	0 ()	0 ()	100 ()	0 ()

【自由記述】	・設問内容について、実態がわからないものがあり、評価できないというものがありました。必須ですので、選択させていただきましたが、『わからない』という選択肢があれば助かりました。
	・校長先生を筆頭に、教職員の皆様方の日々のご尽力に感謝と敬意を表します。
	・設問には会議や資料からは推察しにくく、答えづらいものがありました。
	・校則や生活指導について、時代に合ったやり方がよいと思います。自主性を大切に柔軟に対応してもらいたいです。社会で生きていく力を育む場であってほしいです。

令和7年度学校評価アンケート 項目別対比表

※ 数字は各年次の平均値 単位：% 上段：今年度 下段：昨年度

本表の割合は小数点以下を四捨五入して表示しているため、各項目の合計が100%とにならない場合があります。

No	評価項目	生徒		保護者		教職員			
		AB計	CD計	AB計	CD計	No	評価項目	AB計	CD計
1	(学校運営) 本校は、地域から信頼され続ける学校づくりを推進していると思いますか。	95	5	95	5	1	(学校運営) 本校は、地域から信頼され続ける学校づくりを推進している。	97	3
		88	12	93	7			95	6
2	(学校運営) 本校は、雰囲気明るく、居心地が良いと思いますか。	85	15	86	14	2	(学校運営) 本校は、雰囲気明るく、生徒にとって居心地が良い。	88	11
		82	19	84	16			94	6
3	(学習指導) 先生方は、厳しく指導しながらも、良いところを褒めたり認めたりしながら接してくれると思いますか。	93	7	87	12	3	(学習指導) 職員は、厳しく指導しながらも、良いところを褒めたり認めたりしながら生徒の自己肯定感を高めるような指導を行っている。	95	6
		87	13	89	11			97	3
4	(学習指導) 先生方は、わかりやすく、力のつく授業を行っていますと思いますか。	94	5	85	15	4	(学習指導) 本校は、生徒の学力向上に取り組み、実態に応じた効果的な指導を行っている。	91	9
		93	7	83	17			91	9
5	(学習指導) 先生方は、学習についての評価をきちんとしてくれると思いますか。(保護者：評価は適切だと思いますか)	95	4	92	8	5	(学習指導) 本校の学習についての評価は適切である。	97	3
		95	5	94	5			97	3
6	(生徒指導) 紫波高生は、学校の決まり、生活の決まりを守っていると思いますか。	74	26	72	28	6	(生徒指導) 本校は、学校の決まり、生活の決まりを守るよう適切に指導している。	83	18
		78	22	80	21			88	12
7	(生徒指導) 紫波高生は、あいさつ、整容を含む基本的な生活習慣をしっかりと心がけていると思いますか。(保護者：身につけていると思いますか)	80	20	71	29	7	(生徒指導) 本校は、あいさつ、整容を含む基本的な生活習慣の指導を適切に行っている。	74	26
		83	17	78	22			85	15
8	(生徒指導) 本校は、様々な問題行動の防止のための早期指導が学校全体でなされていると思いますか。	85	15	80	20	8	(生徒指導) 本校は、様々な問題行動の防止のための早期指導を学校全体で行っている。	88	11
		85	15	88	13			83	18
9	(生徒指導) 本校は、いじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止・早期発見の取組をしていると思いますか。	85	15	82	18	9	(生徒指導) 本校は、いじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止・早期発見の取組をしている。	91	9
		86	15	87	13			97	3
10	(生徒指導) 本校は、部活動や行事、ボランティア活動の機会が十分にあり、充実して取り組んでいると思いますか。	90	10	83	17	10	(生徒指導) 本校は、部活動や行事、ボランティア活動等に取り組む、魅力を高めている。	83	17
		87	13	86	15			77	24
11	(進路指導) 本校は、進路達成に向けた取組(情報提供やガイダンス、課外授業や補習授業など)が十分に行われていると思いますか。	96	3	87	14	11	(進路指導) 本校は、進路目標の達成に向けた取組(情報提供やガイダンス、課外授業や補習授業など)を適切に行い、指導の充実を図っている。	97	3
		96	4	94	6			97	3
12	(進路指導) 本校は、生徒の進路相談に適切に対応していますか。	97	3	87	13	12	(進路指導) 本校は、生徒の進路相談に適切に対応し、指導の充実を図っている。	94	6
		96	4	90	10			97	3
13	(健康安全) 本校は、環境整備や安全管理ができていますか。	94	6	95	5	13	(健康安全) 本校は、環境整備や安全管理を適切に行っている。	85	14
		92	8	96	4			94	6
生徒 14	(健康安全) 本校には、悩みや困りごとなどを相談できる先生や相談できる場所がありますか。	92	8	/		14	(健康安全) 本校は、健康指導や保健指導を適切に行っている。	100	0
		86	14					100	0
保護者 14	(総務) 本校は、家庭との意思疎通やPTAとの連携を図っていると思いますか。	/		86	13	15	(総務) 本校は、家庭との意思疎通やPTAとの連携を図っている。	95	6
				89	10			94	6
保護者 15	(総務) 本校は、必要な情報を発信し、保護者への説明責任を果たしていると思いますか。	/		85	15	16	(総務) 本校は、必要な情報を発信し、保護者への説明責任を果たしている。	97	3
				91	9			97	3
生徒 15 保護者 16	(満足度) あなたは(子どもは)、本校での学校生活に満足していますか。	89	11	91	9	17	(総務) 本校は、事故、事件、災害等に対して迅速かつ適切な対応ができるよう役割分担が明確化されている。	92	9
		84	16	92	8			94	6
※数値は各年次の平均値						18	(研修) 本校は、研修の機会が保障されるなど、教職員の意欲を高め、能力向上と人材育成の取組を行っている。	97	3
								94	6
						19	(研修) 本校は、教職員の倫理観・使命感を高め、法令遵守する取組を行っている。	100	0
								97	3

2 今年度の状況について（特に表記のないもの以外は令和8年1月22日現在）

(1) 生徒在籍数（単位：人）

	クラス数	生徒数			備考 (年度始在籍数)
		男子	女子	計	
1年次	3	35	48	83	(86)
2年次	3	39	44	83	(87)
3年次	3	36	43	79	(80)
計	9	110	135	245	(253)

※ 年度始めからの在籍移動等

1年次	退学2	転学1	休学2
2年次	退学2	転学2	休学0
3年次	退学0	転学1	休学0

(2) 欠席率・遅刻率（令和7年11月11日現在、単位：％、括弧内は前年度数値）

	欠席率	遅刻率
1年次	4.3 (5.0)	2.0 (3.7)
2年次	4.0 (3.7)	3.5 (2.9)
3年次	2.8 (2.5)	2.0 (0.9)
全体	3.7 (3.9)	2.5 (2.7)

(3) 3年次進路状況（特に表記のないもの以外は単位：人）

進路先		R07	R06	R05	R04	R03	R02
進学	四年生大学	6	1	22	25	53	55
	短期大学	2	0				
	文科省外大学等	4	1				
	専門学校	18	21				
就職	民間	管内	27	13	39	44	63
		県内	12	12			
		県外	5	10			
	公務員	3	1				
未定・未選択者		2	2	4	9	7	9
計		79	61	65	78	123	137
決定率（％）		97.5	96.7	93.8	88.5	94.3	89.1

参考 進路先一覧

【進学】

- 四年制大学
 - ・ 八戸学院大学
 - ・ 盛岡大学
 - ・ 石巻専修大学
 - ・ ノースアジア大学
- 短期大学
 - ・ 岩手県立農業短期大学校
 - ・ 盛岡大学短期大学部
- 文部科学省管轄外大学等
 - ・ 岩手県立産業技術短期大学校
- 専門学校
 - ・ 北日本ハイテクニカルクッキングカレッジ
 - ・ 北日本ヘア・スタイリストカレッジ
 - ・ 盛岡ヘアメイク専門学校
 - ・ MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校
 - ・ MCL盛岡ペットワールド専門学校
 - ・ MCL盛岡外語観光&ブライダル専門学校
 - ・ 大原ビジネス公務員専門学校盛岡校
 - ・ 岩手理容美容専門学校
 - ・ 北上コンピュータ・アカデミー
 - ・ 仙台リゾート&スポーツ専門学校
 - ・ 東京アナウンス学院
 - ・ 駿台外語グローバルビジネスカレッジ

【就職】

- 管内
 - ・ エーワメデック株式会社
 - ・ 株式会社J Aシンセラ
 - ・ 株式会社いわちく
 - ・ 株式会社岩鑄
 - ・ 株式会社川徳
 - ・ 株式会社トーサイ
 - ・ 株式会社トラヴィス
 - ・ 株式会社花耶
 - ・ 株式会社薬王堂
 - ・ 株式会社山清商店
 - ・ 社会福祉法人紫波会
 - ・ 地熱エンジニアリング株式会社
 - ・ 東洋ワークセキュリティ株式会社盛岡営業所
 - ・ トヨタカローラ岩手株式会社
 - ・ ニチコン岩手株式会社
 - ・ 日清医療食品株式会社北東北支店
 - ・ 盛岡セイコー工業株式会社
 - ・ 有限会社沢目左官工業所
 - ・ 有限会社高橋タイル
 - ・ 岩手トヨタ自動車株式会社
- 県内
 - ・ TDKエレクトロニクスファクトリーズ株式会社北上工場
 - ・ 岩手森紙業株式会社
 - ・ 株式会社中央開発
 - ・ 株式会社ヤマト
 - ・ キオクシア岩手株式会社
 - ・ 社会福祉法人美楽会特別養護老人ホームさくら爽
 - ・ 社会福祉法人松園福社会花巻あすかの里
 - ・ トヨタ紡織東北株式会社
 - ・ 花巻温泉株式会社
- 県外
 - ・ JR東日本東北総合サービス株式会社
 - ・ 株式会社コスモネット
 - ・ 株式会社睦屋盛岡支店
 - ・ 第一貨物株式会社
 - ・ 新潟運輸株式会社
- 公務員
 - ・ 岩手県警察
 - ・ 陸上自衛隊自衛官候補生

3 地域と連携した授業・活動等について

※ 敬称は省略しています。

【各年次授業】

(1) 「産業社会と人間」 (1年次：週2時間)

対象	月	日	講師等	所属・関連機関等	内容等
1年	9	11	戸草友里橋 浦律子 水本千恵子 池田菜月	岩手県庁資源循環推進課 NPO法人紫波みらい研究所 NPO法人古館まちづくりの会 紫波町建設部企画課	SDGs みらい甲子園 アドバイザー
	9	18	阿部円香 坂下慶夏 芦埜未彩 澁谷悠希	岩手県環境生活部グリーン社会推進担当 岩手県地球温暖化防止活動推進センター ICFA (富士大学) ICFA (岩手県立大学)	SDGs みらい甲子園 アドバイザー
	9	25	柗谷祐介 武藤宇将 浦田文伸 高橋枝里 小田島恵 須藤幸愛 小川和葉	紫波町建設部市計画課 紫波町企画総務部企画課 紫波町産業部環境課 紫波町生活部長寿介護課 紫波町生活部健康福祉課 社会福祉協議会 社会福祉協議会	SDGs みらい甲子園 アドバイザー
	12	18	高橋竜介	紫波町企画総務部地域づくり課	社会人講演会 紫波町においての 「わが町、最高の 休日満喫プラン」 生徒と共に

(2) 「総合的な探究の時間」 (2年次：週1時間、3年次：週2時間)

対象	月	日	講師等	所属・関連機関等	内容等
2年	6	24	志田健太郎	株式会社リクルート	進学教育 オープンキャンパスの効果的な活用
	7	1	升田久美子	ジョブカフェいわて	地元企業連携 インターンシップ の心がまえ 職場におけるコミュニケーション
	8	26	升田久美子	ジョブカフェいわて	地元企業連携 体験した「仕事」と「自分」を振り返る
	9	30	樗木真喜	学研教育みらい	小論文・作文講座 基礎力定着
	11	18	本田道也 近藤雄太	紫波町地域おこし協力隊	地域探究講座 自分の“スキル”を活かして 自分の“好き”を仕事にする

対象	月	日	講師等	所属・関連機関等	内容等
3年	5	14	角田元	岩手日報社総合メディア局	新聞学習
	5	28	紫波町 図書館職員	紫波町図書館	図書館文献の活用法
	6	25	藤田茉結	岩手中央農業協同組合	地域連携講座 研究テーマ別座談会
			山本庸介	(株)オーレック仙台営業所長	
			高橋和久	株式会社高橋農園	
			浦田文伸	紫波町産業部環境課	
			遠山健		
			佐藤春男	環境マイスター紫波	
			森川高博	紫波町企画総務部企画課	
			武藤宇将		
			池田菜月		
			小田島恵	紫波町生活部健康福祉課	
			中村さつき	紫波町こども家庭センター	
			長澤聖浩	紫波町教育委員会生涯学習課	
			赤澤優衣	紫波町産業部商工観光課	
			本田道也	紫波町地域おこし協力隊	
			工藤睦	紫波町企画総務部消防防災課	
			細川栄子	食の匠	
			細川玲子		
			大森友紀子	しわうーまん	
			吉田聡志	紫波町スポーツ協会	
			矢羽々英敬	紫波町選挙管理委員会	
			河合愛	紫波町地域おこし協力隊	
			中濱さくら		
			近藤雄太		
			村上一江		
			天野咲耶	紫波町図書館	
			佐藤由美子	紫波町生活部長寿介護課	
	佐藤裕子				
	大坊さゆり	紫波町産業部農政課			
	鷹觜賢次	藤屋食堂			
	佐藤快威	元九戸村地域おこし協力隊			
	和山つぎ子				
9	19	小笠原慎 菅原朝陽	北上コンピュータ・アカデミー	地域連携講座 伝わるプレゼンテーション	
10	1	村井 沙織	HARMONIA・ハルモニア	地域連携講座「話し方で変わる、あなたの印象 ～うまく話すより、大切なこと～」	
1	22		紫波町情報交流館（会場）		

【各系列授業】

(3) エコロジー・フード系列

科目	年次	月	日	講師等	所属・関連機関	内容等
総合実習	3年	5				かしわの里 販売実習 5/16 5/20 5/23 5/27 5/30 6/3
		6	13		紫波郵便局	J P ふれあい花壇植栽
		6	17		シェーンハイムやはば	植栽協力活動
		10	18			町産業まつり 販売実習
		10				かしわの里 販売実習 10/21 10/28 10/31 11/4 11/14
		11	14		石鳥谷商店街	ぷらっと市 販売実習
		11	14		石鳥谷商店街	ぷらっと市 販売実習
					紫波町	ふるさと納税返礼品 ぶどうジュース

(4) ライフデザイン系列

科目	年次	月	日	講師等	所属・関連機関	内容等
フードデザイン	3年	10	10	星真土香	畑の台所	地域の食卓「畑の台所」への参加、共食学習
		11	14			
		10	31	尾形泰道	株式会社いわちく	地域企業と連携したレシピ開発
		12	12		caféゆいの木 紫波町農政課	OnedayChef (高校生1日レストラン)
	1	16	吉田正子 田中館節子	食の匠 (紫波郡生活研究グループ)	紫波の地域を味わおう！ 食文化交流会① バラ巻き寿司、ひつつみ	
2年	2	18	吉田正子 田中館節子	食の匠 (紫波郡生活研究グループ)	紫波の地域を味わおう！ 食文化交流会② がん月、かまやき	
保育基礎	2年	9	13	岡あやこ	認定こども園ひかりの子	子どもの発達に関する講習会
	3年	10	1		子育て支援センター しわっせ	子どもの発達に関する講習会
		11	18	高橋翔平	花工房パステール 盛岡本宮店	新年を迎える準備を学ぶ しめ飾り

(5) 福祉・健康系列

科目等	年次	月	日	講師等	所属・関連機関	内容等
介護実習	2年	10	15 ～ 17	各福祉施設	介護老人福祉施設 百寿の郷 介護老人福祉施設 にいやま荘	介護老人福祉施設実習 施設介護サービスの実際 と介護技術を学ぶ
福祉講話・体験学習	3年	5	13	紫波町職員		ユニバーサルデザインを コンセプトに作られたオ ガール見学 紫波町における社会資源 としての役割を学ぶ

		6	3	村上晃	あけぼの治療院	視覚障害者の生活の理解、体験 (協力：紫波中央駅)
		6	17	阿部容子 山平誠	介助犬ユーザー	当事者からの講話
		7	8	鷹嘴武寿	紫波町社会福祉協議会	障害者支援に必要な価値観と倫理観
		7	15	菊池優樹	就労継続支援A型事業所 ことりファーム	精神障がい者の支援 (生活介護、就労支援)
		7	22	細川恵子	NPO法人紫波さぷり	障がい児の地域支援
交流 実践 学習		7	8 15 22	施設利用者 及び 施設職員	生活介護紫波南さぷり 多機能型事業所 けやき学園 多機能型事業所 Soleil 陽だまり せいかつかいご陽だまり 多機能型事業所 あさあけの園	各施設において利用者との交流をとおし、様々なニーズに応じた地域の障がい者福祉の実際を学ぶ
		8	26	施設職員 及び 利用家族	紫波町子育て応援施設 しわっせ	「しわっせまつり」参加 就学前児童への支援のあり方を学ぶ
		11	25	施設利用者	生活介護紫波南さぷり 多機能型事業所 けやき学園 多機能型事業所 Soleil 陽だまり せいかつかいご陽だまり 多機能型事業所 あさあけの園	利用者を学校に招待し、レクリエーションプログラムを提供し生徒の対人援助技術の実践力を高める。 ※インフルエンザの流行で急遽不参加施設あり
		12	2			
介護 実習		5	15 16 20 21	各施設職員	紫波町社会福祉協議会 デイサービス虹のいえ	訪問介護(同行訪問)実習 通所介護実習 居宅介護サービスの実際と介護技術を学ぶ
		6	16 18 19 20	各施設職員	介護老人福祉施設 百寿の郷 介護老人福祉施設 にいやま荘	介護老人福祉施設実習 施設介護サービスの実際と介護技術を学ぶ

【その他授業等】

(6) スクールソーシャル基礎（1年）

対象	月	日	講師等	所属・関連機関等	内容等
1年	11	17	加藤源広	もりおか若者キャリアサポートセンター	自立に向けて、生活する力、社会とかかわる力
	12	8	長葎康紀	岩手県療育センター	自己理解と他者との関わり
	2	2	加藤源広	もりおか若者キャリアサポートセンター	ヤングケアラーとは

(7) 保健講話

対象	月	日	講師等	所属・関連機関等	内容等
1年	10	30	志釜研作 西里真澄	株式会社テントテン 岩手医科大学看護学部	保健講話 妊娠・出産に対する正しい知識 子育てと仕事の両立 ライフプラン設計
	7	3	松浦誠	岩手医科大学薬学部臨床薬学講座 地域医療薬学分野（学校薬剤師）	薬物乱用防止教室 薬物乱用及びオーバードーズの危険性について 医薬品について
2年	9	2	岡田芳美	いわて男女共同参画サポーター	保健講話 デートDVについて 学ぼう～大切なわたし、大切なあなた～
	10	28	白椋光平 酒井小麦	(株)岩手ヤクルト販売	食育講演会 腸のはたらき、腸内環境を整えて健康になるための生活習慣について
3年	11	17	小野寺夏美 小嶋輝々夢	紫波町生活部健康福祉課	保健講話 保健師の活動の紹介 生活習慣病予防 予期せぬ妊娠やSNSでの性被害・加害を防ぐための行動選択 各種相談先について

(8) 企業見学

対象	月	日	講師等	所属・関連機関等	内容等
2年	12	23	参加企業 12社	盛岡公共職業安定所 岩手県盛岡広域振興局	地元企業の説明 就業に向け理解促進 就職活動に関する意識の高揚

(9) 防災講演会

対象	月	日	講師等	所属・関連機関等	内容等
全年次	9	22	工藤睦	紫波町企画総務部消防防災課	防災教育講演会 「紫波町の防災に関すること」

(10) いじめ防止プログラム

対象	月	日	講師等	所属・関連機関等	内容等
1年 2年	1	19	篠木 洋子	NPO法人いわてソーシャルサポートセンター	いじめ防止プログラム こころの健康を考える

(11) ボランティア

- ・ あかいしキッズ サマー・ウィンタースクール
- ・ ふるだて防災フェスタ
- ・ 紫波町消防演習
- ・ 各福祉施設
- ・ 紫波っ子サイエンス教室 等

KITAGIN NEWS RELEASE



2025年12月12日

各 位

きたぎん SDGs 私募債（銀行保証付）引受けについて ～山晃有限会社～

株式会社北日本銀行（頭取：石塚恭路）は、山晃有限会社（代表取締役：横田尚哉）が発行した「きたぎん SDGs 私募債」を引受けし、下記のとおり寄付いたしましたのでお知らせします。

本商品は、当行の社会貢献活動の一環として、発行企業さまのご希望を踏まえ、当行が受け取る手数料の一部をもとに、当行から SDGs 関連団体等への寄付を行うものです。

今後とも、当行は、SDGs に積極的に取り組む企業の支援を行い、地方創生と地域経済の活性化に取り組んで参ります。

記

1. 発行企業の概要

発行企業名	山晃 有限会社
代表者	代表取締役 横田 尚哉
所在地	岩手県紫波郡紫波町二日町字西七久保 66-1
事業内容	自動車学校
発行企業の概要	当社は、岩手県の県央部紫波町にて紫波中央自動車学校、岩手クレーン学校を営業しており、各種自動車免許教習、フォークリフト運転・車両系建設機械運転等の技能講習、高齢者講習などを行っております。教習は担当指導員制で一人の担当指導員が卒業までサポートしております。地域の自動車学校として多くの方にご愛顧いただいております。

2. 寄付先の概要

寄付先	岩手県立紫波総合高等学校
所在地	岩手県紫波郡紫波町日詰字朝日田 1
概要	当校は、普通教育と専門教育の選択履修を可能にし、総合的に学ぶことができる学科である総合学科高校として伝統と斬新さを兼ね備えた高等学校です。 紫波町の発展とともに、地域の皆様の期待に応え、地域に貢献しながら「知を求め心豊かにたくましく」生きる力を育てております。

KITAGIN NEWS RELEASE

きたぎんグループ SDGs 宣言

当行は、2015年3月に国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた取組みを積極的に行っています。

2020年6月に「きたぎんグループSDGs宣言」を表明し、国際連合において採択されたSDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けて、「地域密着」「健全経営」「人間尊重」の経営理念に基づき、地域社会が抱える問題や環境問題の解決に取り組んで参ります。



北日本銀行は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

※SDGsは Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称。2015年9月の国連サミットで採択された国際目標。17のゴール・169のターゲットから構成され、2030年までに社会が抱える問題を解決し、地球上の「誰一人として取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っています。

以上

[本件に関するお問い合わせ先]

フィナンシャルイノベーション&ソリューション部
(担当：山口 TEL070-8688-4889)